

天竜川総合学習館かわらんべ 地域と歩んだ 20年

天竜川総合学習館 かわらんべ

人のたくさん集う施設がいいと思い、

それで講座を中心とした施設活用を計画した^{みちのり}今村 理則

天竜川総合学習館「かわらんべ」の活動のようす





















はじめに

2002（平成14）年7月7日（川の日）に天竜川総合学習館「かわらんべ」がオープンし、20年を経過しようとしています。学習館のオープンはこの地区の治水対策事業の完成とも重なり、治水対策事業によって創出された新たな堤内地の土地利用の進展とともに、地域の多くの人に支えられて活動してきました。

本書ではその成立から現在までを振り返り、多くの皆さんにも私たちの活動を知っていただきたいと思います。この編集の過程で、この地域での学習館の存在意義を改めて考え、私たちも今後の活動を見つめなおすきっかけともなりました。

記録やデータが多いので、最初は「**6** 想い出座談会」から読んでいただいたほうが良いかもしれません。

また、これまでの当館20年の活動を評価していただき、2021（令和3）年11月には「手づくり郷土賞¹⁾」を受賞することができたことを報告します。



手づくり郷土賞 記念発表会（2021年12月18日 東京）

1) 地域活動によって地域の魅力や個性を生み出している良質な社会資本とそれに関わった団体のご努力を表彰するもの（国土交通省 総合政策局）

目次

1	川路、龍江、竜丘地区という地域	1
2	天竜川総合学習館の成立	3
2.1	建設に至る経緯	3
2.2	建設の役割分担	5
2.3	展示の企画・検討	5
2.3.1	企画会議	5
2.3.2	展示の検討	6
2.4	愛称「かわらんべ」	6
2.5	オープニングセレモニー	6
2.6	館内設備	7
2.6.1	天竜川防災拠点施設諸室概要（開館当初）	7
2.6.2	館内フロアガイド	10
2.7	施設の位置づけ	10
3	運営体制	13
3.1	運営スタッフ	13
3.2	天竜川の水辺活動を支援する会	13
3.3	運営組織	14
3.3.1	運営委員会	15
3.3.2	企画会議	16
3.3.3	事務局会議	17
3.4	学習館運営費用	18
4	20年間の活動内容	19
4.1	データから見る活動	19
4.2	かわらんべ祭り	23
4.3	1周年記念事業	25
4.3.1	記念フォーラム	25
4.3.2	特別講座	27
4.3.3	「天竜川ものがたり」の募集	27
4.4	3周年記念事業	28
4.5	10周年記念事業	28
4.6	20周年記念事業（予定）	29
4.7	その他の活動	29

4.7.1	たねの会	29
4.7.2	飯伊釣り文化を伝承する会	29
4.7.3	水災害被災地支援の募金活動	30
5	広報活動	31
5.1	インターネット	31
5.2	広報かわらんべ	32
5.3	パンフレット	32
6	想い出座談会	35
7	利用者アンケートから	45
7.1	現在の利用者の声	45
7.2	講座卒業生の声	45
	付録 A新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	49
A.1	休館措置	49
A.2	中止イベント	49
A.3	その他対応	49
	付録 B利用状況データ	51
	付録 C関連資料	57
C.1	各種表彰	57
C.2	歴代運営スタッフ	57
C.3	年表	58

図目次

1.1	現在の川路・龍江・竜丘地区	1
1.2	昭和 36 年 6 月豪雨災害の川路・龍江・竜丘地区	1
2.1	オープニングイベント	7
2.2	館内フロアガイド	10
3.1	かわらんべ協力員	14
3.2	組織図	15
4.1	かわらんべ利用者推移	19
4.2	年間講座開催数	20
4.3	月別かわらんべ利用者（2002 年 7 月～2022 年 3 月）	21
4.4	年月別かわらんべ利用者（全体）	21
4.5	年月別かわらんべ講座参加者数	22

4.6	年月別リクエスト講座利用者	22
4.7	年月別団体見学者数	23
4.8	かわらんべ祭り 一般参加者数	23
4.9	かわらんべ祭り アンケートから	24
4.10	2014 年のかわらんべ祭り（防災講座）	25
4.11	2015 年のかわらんべ祭り（自然体験講座）	25
4.12	1 周年記念フォーラム フライヤー	26
4.13	20 周年記念バナーとロゴ	29
4.14	2021 年 7 月豪雨災害への義援金募金	30
5.1	インターネットページ	31
5.2	広報かわらんべ（創刊号・100 号・200 号）	32
5.3	パンフレット（初版・第二版）	33
5.4	パンフレット（第三版・第四版）	33
6.1	座談会参加者	35
6.2	座談会の風景	35
6.3	2003 年の水辺の楽校いいだ	38
6.4	2017 年の水辺の楽校いいだ	38
6.5	水辺の楽校いいだのタコノアシ	39
6.6	水辺の楽校いいだのミクリ	39
6.7	リクエスト講座での駆除（2019 年）	40
6.8	講座でのコサージュづくり（2020 年 11 月 29 日）	42
7.1	かわらんべ講座で印象に残ったもの	45
C.1	歴代スタッフ リスト	57

表目次

2.1	天竜川防災拠点施設（治水資料館）建設に伴う河川広報・展示室 等企画検討委員	5
3.1	天竜川総合学習館 運営委員会 委員	16
3.2	天竜川総合学習館 企画会議 構成員	17
3.3	天竜川総合学習館 事務局会議	18
B.1	利用状況（H14～H17）	51
B.2	利用状況（H18～H21）	52
B.3	利用状況（H22～H25）	53
B.4	利用状況（H26～H29）	54

表目次

B.5	利用状況（H30～R03）	55
C.1	天竜川総合学習館 年表	58

1 川路、龍江、竜丘地区という地域

天竜川総合学習館「かわらんべ」がある飯田市川路は、日本三大桑園として養蚕業に生きてきた「養蚕の里」といわれてきました。

一方で「水難の里」と自称せざるを得ないという川路・龍江・竜丘地区。上流に鷺流峡^{がりゅう}、下流に名勝天竜峡に挟まれた氾濫原の性格を持つ地区であり、水理的には急激な川幅の拡大による流速の低下、狭さく部による堰上げで水位が上昇しやすく、土砂が堆積しやすい特性があるといえ、天竜川の洪水と共生共存を求め続けてきた地域です。



図 1.1 現在の川路・龍江・竜丘地区

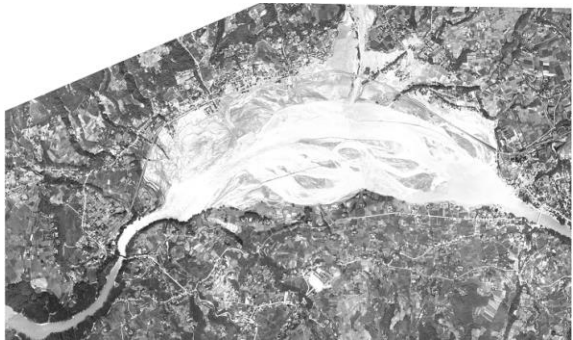


図 1.2 昭和 36 年 6 月豪雨災害の川路・龍江・竜丘地区

河川を管理する建設省 天竜川上流工事事務所¹⁾は昭和 36 年 6 月の大きな浸水被害を受けたことを踏まえ、当時の計画高水流量に耐えうる大規模堤防案を 1962（昭和 37）年に県、飯田市および地元の関係者に提示したのですが、飯田市および地元からは「大規模堤防では潰れ地が大きい」ということで反対を受けます。1966（昭和 41）年 3 月 19 日に建設省 中部地方建設局、長野県および中部電力株式会社の間で「天竜川上流川路・龍江地区治水対策に関する基本協定」が締結されました。これが「2 千トン²⁾越流中堤防」と呼ばれる蛇かごで被覆した堤防整備計画です。

この協定による越流堤方式の対策後も 1983（昭和 58）年 9 月の台風 10 号でふたたび広い範囲の浸水が発生したことから、新しい土地利用を可能にするために堤防法線

1) 現 国土交通省 天竜川上流河川事務所

2) トンは m^3/s （毎秒〇立方メートル）の通称。

を山側に移動し、約 98ha の土地を計画高水位まで地盤をかき上げることによる治水対策を立案。1985（昭和 60）年 3 月 21 日、中部地方建設局、長野県、飯田市および中部電力株式会社の 4 者で「天竜川上流部の川路・龍江・竜丘地区の治水に関する対策についての基本協定」を締結しました。

家屋の一時移転、JR 飯田線の付け替え、広大な範囲の盛土、護岸の整備等を経て、2002（平成 14）年 3 月 19 日に盛土事業、同年 3 月 31 日に河川改修事業も完成し、同年 7 月 7 日に「天竜川総合学習館」および「水辺の楽校^{がっこう}いいだ」がオープン。同年 9 月 7 日に天竜川上流川路・龍江・竜丘地区治水対策事業の完成記念式典が挙行されました。

水辺の楽校

人間と環境の関わりについての理解を深め、豊かな人間性を育んでいくために、市民団体や河川管理者、教育関係者などが一体となって、地域の身近な水辺における環境学習や自然体験活動を推進するため、国土交通省、文部科学省、環境省の 3 省が連携して、『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』に取り組んでいます。

この取組に対し国土交通省では、子どもが安全に水辺に近づけ、環境学習や地域交流などの活動を推進するために必要な、親水護岸などのハード整備を「水辺の楽校」プロジェクトとして実施し支援するものです。（国土交通省 Web ページより）

水辺の楽校いいだ

川路・龍江・竜丘地区治水対策事業で生まれた約 26ha の新堤外地の一部が各地区ごとに「水辺の楽校」のゾーンとして平成 13 年 1 月に登録されました。この水辺環境の整備をすることにより、親子のふれあいの場、水遊びの場を提供するだけでなく、天竜峡エコーバレープロジェクトによる新堤外地の有効な利活用と、天竜川総合学習館との一体的な運営により、子どもたちの自然体験や、学校での総合的な学習時間の成果を高められることを望んでいます。（「天竜川水辺の楽校いいだ」パンフレットより）

川路 自然体験ゾーン

龍江 水に親しむ公園ゾーン

竜丘 水に親しむ公園ゾーン

2 天竜川総合学習館の成立

2.1 建設に至る経緯

本項は「川路水防史 続編」[1]に、「天竜川総合学習館建設の経緯」として天竜川総合学習館の初代教育担当となった今村理則^{みちのり}氏がまとめた部分を許可を得て引用することとしました。

川路水害予防組合が提出した要望書に対して昭和 61 年 10 月 3 日付で飯田市長から『十六項目の回答書』が寄せられた。この回答書について、昭和 63 年 9 月 5 日には、川路水害予防組合の役員と飯田市治水対策部との間で確認書が取り交わされた。これが、所謂『十六項目の確認書』である。

この確認書の中の 8 番目に、「公共施設について」という項目がある。飯田市では「道路、河川、公園も公共施設である」としながらも、「地域振興貢献し得るような何らかの公共施設を盛土完成後に、速やかに当該区域内に設置する」ことを確認している。

その後、川路水害予防組合では、毎年その活動方針に「公共施設の誘致等に努力する」ことを掲げてきている。

しかし、公共施設の建設を具体的に飯田市と国に要望したのは、平成 8 年。「水防資料館」の建設を活動方針に盛り込んだのは平成 11 年度の定期総会からだった。

「水防会館」の建設に向けて、地元選出の国会議員や当時の建設省河川局に陳情を重ねてきた。この時に「箱物では予算がつくのは難しい」という印象を受けたので、内容運営面に力点を移すという意味で、とりあえず「治水資料館」と名称を変更することにした。

この間、飯田市や推進協・地権者組合の積極的な協力を得て強力に運動がすすめられた。平成 11 年 3 月 19 日には、飯田市及び川路・竜丘・龍江の 3 地区共同の要望書も建設省にあげられるなど、運動も急速に進展していった。

水防組合では、なぜ公共施設の誘致を運動方針の一つに掲げてきたのか。今村邦彦組合長のまとめ（「広報 川路水防」第 22 号）を敷衍すると次のようになる。①世紀的治水事業とはいえ、住民が抱えている安全性への不安を解消するには、公共施設を、それも最も危険と思われる場所に設置する必要がある。②流域住民が有史以来、続けてきた水害との闘いと治水事業受け入れまでの苦難、その後にも及んだ住民間の葛藤。これらの宿命的ともいえる歴史は後世に伝えていかなければならない。③前例を見ないといわれている全面盛土事業は、全国へ情報発信する価値がある。そのための施設がどうしても必要になる。それはまた IT を活用した河川情報センターとしての役割を担うことになり、河川管理にも役立てることができる。④

天竜川の歴史とそこに生息する動植物の観察学習が体験できる場を提供する。そこは、人類も包含した地球の存続に欠かせない、自然との共生・保護について考える場となる。⑤地域のコミュニティ・センターとして地域活性化の拠点とする。予定されている水辺の楽校と一体的に利用する。あるいは天竜峡とタイアップして地域起こしをはかる。さらにまたスポーツ・遊戯性を持った人たちにとっても魅力のある場所を提供することもできる。

建設省（現国土交通省）の反応も速かった。平成 12 年 6 月には、「治水資料館そのものは実現する」ことが伝えられ、7 月には、「天竜川防災拠点」建設の予算がつき、その年度から着工することが決定された。

（中略）

この連絡を受けて、水防組合では 9 月に“治水資料館ワーキンググループ”を現役員と OB 役員 12 名で結成して、検討に入った。

4 回の会議でまとめあげた一応の結論の概要は【入口広間】①治水資料館の展示紹介②飯伊地方の博物館等の連絡網③コース案内（歩く・自転車・車）④盛土工事⑤天竜川流域模型【河川展示室】テーマ「共生」：①天竜川の水位変化②川と歩んできた道③通船と渡船、テーマ「祈り」：①満水年表②川路の大満水③あばれ跡、テーマ「自然」：①^{おうけつ}甌穴②植物③魚④水生昆虫と水質⑤昆虫⑥鳥⑦石⑧柱状図【階段】①天竜川立体図②水槽③大航空写真。というものだった。

階段などすでに大枠が決まっているものもあり、会場面積の制限もあるので、ワーキンググループ案は縮小をせざるをえなかったが、それでもかなりの部分は実現することになった。

天竜川防災拠点施設「治水資料館」の企画会議の最初の会議が開かれたのが、平成 12 年 12 月 22 日。飯田市治水対策部・飯田市教育委員会・建設省 天竜川上流工事事務所¹⁾・業者・伊那谷自然友の会・川路水害予防組合で構成するこの会議は、さらに周辺小学校の先生や博物館の学芸員を加えて、河川展示室・環境学習等の備品検討委員会に発展、平成 14 年 3 月まで検討が続けられた。

この過程で、確認されてきたことは①再訪者としての次世代を大事にしていきたい。そのために「総合学習」に場を提供できるようにする。②限られた空間を有効利用するためにパソコン等の情報機器を最大限に利用する。ということだった。

せっかくの施設、地域で活かしたい。

平成 14 年 3 月 25 日仮オープンの完了した年の 7 月 7 日「川の日」の開館であった。

2.2 建設の役割分担

建設当時は「天竜川防災拠点」という名称としていて、「天竜川防災拠点事業に関する覚書」（平成 13 年 1 月 11 日）を長野県飯田建設事務所、飯田市、中部電力（株）飯田支店、天竜川上流工事事務所と結んでいます。これによると、建築施設は天竜川上流工事事務所が、外構工事は長野県飯田建設事務所が、館内備品や展示物（水力発電関係以外）を飯田市、展示物（水力発電関係）を中部電力（株）が施行することとしています。

この 4 者が建設に加わるようになったのは、この地区の治水対策事業がこの 4 者による共同事業だったからに他なりません。

2.3 展示の企画・検討

2.3.1 企画会議

2000（平成 12）年 12 月、「天竜川防災拠点施設（治水資料館）建設に伴う河川展示室・広報・展示室等企画検討委員会」を組織し、2001（平成 13）年 7 月までに 3 回開催して学習館内の展示を企画・検討しました。

構成メンバーは下記のとおりです。

表 2.1 天竜川防災拠点施設（治水資料館）建設に伴う河川広報・展示室等企画検討委員

川路小学校	教諭
龍江小学校	教諭
竜丘小学校	教諭
川路水害予防組合	治水資料館建設ワーキンググループ代表
伊那谷自然友の会	
天竜川上流河川事務所	副所長
天竜川上流河川事務所	建設専門官
飯田市教育委員会	学校教育課長
飯田市美術博物館	学芸係（2 名）
飯田市治水対策部	部長
	業務課長
	計画調整幹
	庶務係長
	庶務係

2.3.2 展示の検討

施設整備にあたっては、業務コンペを実施。「天竜川防災拠点施設（治水資料館）建設に伴う館内施設整備業務コンペ審査委員」（企画検討委員と同メンバー）による審査を行い、2001（平成 13）年 8 月 24 日に応募のあった 3 社のうちの 1 社を決定。

2001（平成 13）年 9 月 11 日から「天竜川防災拠点施設（治水資料館）建設に伴う河川広報・環境学習室等の備品検討委員会」で具体的に検討に入り、2002（平成 14）年 1 月 31 日まで 5 回を重ねました。

2.4 愛称「かわらんべ」

2002（平成 14）年 5 月 15 日を締め切りとして飯田市が愛称募集を行い、137 件の応募の中から 3 名をオープニングセレモニーで表彰しました。「かわらんべ」の愛称については 2 件の応募があったのですが、抽選で下記当選者となりました。

当選となった今村さんの応募には「私たちの子どもの頃は、夏ともなれば天竜川で、水浴びをして遊んだものだ。そして、いつまでも遊んでいると親たちに『そんなに遅くまで川にしていると『かわらんべ』にしんのこ抜かれる²⁾に』と注意されたものである。この天竜川総合学習館が拠点となって昔のように子どもたちが水に親しめるような川になり、どこかへ行ってしまった『かわらんべ』が戻ってくることを期待したいものだ」という応募のコメントがありました。

ちなみに、採用作品である特賞は「天竜峡温泉 ペアでご招待（宿泊・舟下り）」（天竜峡温泉観光協会 提供）、審査委員賞は「特性みそ（10kg）」（飯田市川路 こだわり川路生産加工組合 提供）、アイデア賞は「りんごジュースほか詰め合わせ」（飯田市龍江 農産物直売所あざれあ・くだ菜市 提供）でした。

特賞 今村 和行「かわらんべ」

審査委員賞 田中 君子「川太郎」

アイデア賞 矢澤 菜美「天竜戦隊 学ぶんジャー」

2.5 オープニングセレモニー

川の日（7 月 7 日）に「水辺の楽校いいだ」の開校とあわせてオープニングセレモニーを行いました。

日時 2002（平成 14）年 7 月 7 日（日） 10:00～12:30

会場 天竜川総合学習館 かわらんべ

内容

1. 記念式典（テープカット、くす玉開き、感謝状贈呈、賞状贈与、こども達のメッセージ、来賓祝辞）

2) 河童に抜かれる言い伝えでは「尻子玉（尻小玉）」というのが全国的には一般的

2. 記念イベント（エコ風船）
3. 開館記念講座
 - (a) 水辺の楽校（川路自然体験ゾーン）のワンドへ川魚の放流
 - (b) デジタル顕微鏡でプランクトンの観察
 - (c) 天気図を作ろう
 - (d) 七夕を飾ろう
 - (e) 天竜川のクイズに挑戦
 - (f) 天竜川の石で看板を作ろう（ストーンペインティング）

その他 餅投げ、流しそうめん、特産物販売

参加者数 約 800 名

川魚の放流はコイを 1000 匹、ドジョウ 200 匹、ウナギ 30 本。子どもたちの歓声が上がりました。ストーンペイントで作った「かわらんべ」の看板は、今でも玄関を飾っています。いずれの講座も餅投げや流しそうめんに劣らず大好評でした。

この時の各講座が好評を得たことは、少し不安だった毎週土曜日に開催していく予定の「かわらんべ講座」への手ごたえでもあり、現在まで長く続く「講座を中心とした活動」という学習館の骨格事業に育つことを確証したようにも思います。



図 2.1 オープニングイベント

2.6 館内設備

2.6.1 天竜川防災拠点施設諸室概要（開館当初）

1. 天竜川防災拠点の設置目的

- 1) 洪水時における天竜川流域の河川情報の収集・発信基地及び水防活動拠点とし、洪水による被害を未然に防止、又は洪水被害を最小限にとどめるための施設とする。
- 2) 天竜川上流川路・龍江・竜丘地区の治水対策事業の経緯及び日本有数の急流河川である天竜川を中心とした河川に関する情報を保存・展示し、かつ河川に関する体験学習型施設を具備することにより、河川に係る事業の意義、必要性を訴える施設とする。
また、平成 14 年度から小中高校教育で導入される「総合的な学習の時間」に支援できる施設とする。
- 3) 河川整備やまちづくり等を進めるための地域のコミュニティ施設（講演会、研修会、各種会合等）として利用する施設とする。

2. 諸室の概要

鉄骨造 2 階建 延床面積：約 $950m^2$

1) 河川状況監視室 (2 階)

用途 洪水時の河川状況を ITV モニターや目視により監視する。平常時は一般に開放、多目的に使用。バードウォッチング。

配備品 ITV 監視カメラ（モニター）他

面積 $30m^2$ 程度。

2) 情報機器室 (2 階)

用途 洪水時において水防関係者が雨量、水位情報や気象等のデータを収集し、洪水対策を執る。

配備品 ITV 監視カメラ・コントローラー、FRICS・MICOS 端末、流域データベースの端末、電動スクリーン、洪水時情報受信用の FAX、テレビ、作業机等。

面積 $30m^2$ 程度。

3) 河川展示・体験室 (1 階、2 階それぞれに配置)

用途 河川に関する事業広報、学校の総合学習支援のため、展示物、体験型の施設を配置する。

配備品 展示パネル、体験型展示装置他

面積 1 階： $170m^2$ 程度+2 階：50 面程度= $220m^2$ 程度。

4) エントランスホール (1 階)

用途 河川事業広報用の展示パネル等を設置する。また、外部（ビオトープ、桜並木等）を訪れた人の休憩スペースも兼ねる。

配備品 展示パネル、休憩用テーブル・イス等

面積 $85m^2$ 程度

5) 管理室 (1 階)

用途 防災拠点施設の管理者の執務室

配備品 事務机、打ち合わせテーブル、コピー機、書類保管庫等。

面積 $40m^2$ 程度

6) 水防資材倉庫 (1 階)

用途 水防管理団体が水防資材等を備蓄し、水防活動のために利用する。

面積 $45m^2$ 程度。

7) 総合学習室／地域コミュニティー室 (2 階)

用途 多目的に使用する。スクール形式 50 名程度、最大 100 名程度収容可能。小中高生の総合学習や研修会、また地域における講演会や座談会・会合等、地域のコミュニティーとしても利用する。'

配備品 折りたたみテーブルとイス、音響・映像機器

面積 $90m^2$ 程度。

8) 河川図書室 (2 階)

用途 河川に関する図書（水害写真、河川関係の書籍、治水・利水・環境に関する文献・図鑑、その他人文・自然科学系の書籍）を一般利用者に開放し、自由に閲覧してもらう。総合学習及び小中高生の夏休み等の研究・学習スペースとして利用してもらう。

配備品 最大 5000 冊程度収納の本棚、数席の閲覧碇を計画。利用状況により適宜配置を見直す。

面積 $55m^2$ 程度

9) 2 階フロアー

用途 壁面を利用して広報パネルを展示。また、一般利用者、市民団体用の展示スペース

配備品 広報パネル、休憩イス等

10) 屋上

用途 河川状況監視カメラ及び水位警報灯を設置し、洪水時等の情報収集・発信を行う。平常時は、天竜川の河川敷等に生息する鳥類の観察（バードウォッチング）にも利用可能。

面積 約 $300m^2$

2.6.2 館内フロアガイド



図 2.2 館内フロアガイド

2.7 施設の位置づけ

国土交通省が設置した施設（「天竜川防災拠点（総合学習館）」）は河川管理施設であり、飯田市長に河川法第 99 条に基づく維持管理を委託しているものです。飯田市は一般社団法人 飯田市天竜川環境整備公社に委託を行っています。

2014（平成 26）年 3 月 14 日に天竜川総合学習館と一般財団法人 飯田市天竜川環境整備公社を河川協力団体に登録。

館の基本目標は 2022（令和 4）年現在、3 つの役割と 5 つの目的に従って事業を実施することとしています。

- 3 つの運営方針（役割）

1. 防災情報の拠点施設
2. 天竜川流域の自然・環境・治水・歴史・文化等の総合学習
3. 地域のコミュニティ施設

- 5 つの目的

1. 防災拠点としての機能を確認し、よりよい在り方を研究します。
2. “水辺の楽校いいだ”と相補的に活用することにより、相乗的効果を期待できる運営を行います。
3. 講座については幼児・保育園・幼稚園・小学生から大人までを対象にし、特に学校の行事等配慮しながら多くの子どもたちが参加できるように計画します。
4. 地域と一体的活動ができるように地元から人的な支援を得られる運営体制とします。
5. 天龍峡の景観への配慮や天竜川の河川環境保全にも積極的に取り組みます。

3 運営体制

3.1 運営スタッフ

「天竜川総合学習館の管理運営要領」（平成 27 年 4 月 1 日改定）によれば、職員体制を次のように定めています。

総括 学習館の管理運営に関する総括

館長 学習館の管理運営の総括責任者で事務局の職務の総括、学習館の事務処理に関する事項の決裁、運営委員会および企画会議の開催と提案資料の作成、学習館にかかわる対外事項の調整

教育担当者 学習館の講座等の企画・運営、水槽、生物の管理・飼育にかかわる事項、来館者への対応（展示説明等）、その他館長から指示された事項

学芸員 天竜川流域の自然科学に関する調査研究、講演会・研修会・展示棟の企画運営、その他館長から依頼された事項

河川広報担当者 河川体験講座・イベント等の企画運営、学習館のホームページ作成と運用、広報機関紙の発刊、その他館長から指示された事項

事務員 学習館の管理運営に関する事務一般、学習館の利用申込者への対応、河川図書室およびビデオライブラリーの運用、その他館長から指示された事項

3.2 天竜川の水辺活動を支援する会

学習館のスタッフとして「サポートボランティア」「サポートスタッフ」「かわらんべ協力員」「協力者」「助っ人」「かっぱバァ」など固定の呼び名はなく、リーダー的な役職もない集まりとして開館から約 20 年間、学習館の活動をしっかりと支えている皆さんがいます。

2021（令和 3）年の「手づくり郷土賞」の受賞をきっかけに、「天竜川の水辺活動を支援する会」として活動を行うこととなりました。そのスタッフの名称は「かわらんべ協力員」となり、ようやく正式な名称がつきました¹⁾。

1) 協力員の主要なメンバーの 1 人である今村 道子さんに本冊子の題字を揮毫いただきました。



図 3.1 かわらんべ協力員

3.3 運営組織

天竜川総合学習館は「天竜川総合学習館の管理運営要領」にその方法が定められています。運営委員会（管理運営要領 第3条）と企画会議（管理運営要領 第4条）の2つの組織で運営の基本を計画しています。企画会議で各種計画案を作成し、運営委員会でその案を審議する方式としています。

天竜川総合学習館 職員（管理運営要領第2条）

総括	（飯田市副市長）
館長	（飯田市の選定による）※
事務局	教育担当者※
	学芸員（兼務）若干名
	河川広報担当者※
	事務員※

※ 常駐

運営委員会（管理運営要領第3条）

議長	飯田市 建設部長
委員	天竜川上流河川事務所 副所長
	飯田市教育委員会 教育次長
	飯田市美術博物館 副館長
	飯田市小中学校長会 推薦者
	（一財）飯田市天竜川環境整備公社 理事及び評議員
	飯田市水害予防組合長
	飯田市川路、龍江、竜丘小学校PTA正副会長の内1名の女性

企画会議（管理運営要領第4条）

議長	飯田市 建設部 管理課長
幹事	飯田市立川路小学校 総合学習担当教諭
	飯田市立龍江小学校 総合学習担当教諭
	飯田市立竜丘小学校 総合学習担当教諭
	天竜川上流河川事務所 調査課長
	天竜川上流河川事務所 管理課長
	天竜川上流河川事務所 飯田河川出張所長
	飯田市教育委員会 学校教育課長
	飯田市 産業経済部 観光課長
	（一社）飯田市天竜川環境整備公社 事務局長
	飯田市川路水害予防組合 広報委員長
	川路まちづくり委員会会長による推薦（女性1名）
	龍江地域づくり委員会会長による推薦（女性1名）
	竜丘地域自治会会長による推薦（女性1名）

図 3.2 組織図

3.3.1 運営委員会

学習館内施設及び展示物の有効活用等による学習館の円滑な運営を図るために、関係委員等で構成しています。毎年2月頃に開催しています。

＜天竜川総合学習館 管理運営要綱 抜粋＞

（運営委員会）

第3条 学習館内施設及び展示物の有効活用等による学習館の円滑な運営を図るため、運営委員会を組織するものとする。

運営委員会は以下の事項について、審議・決定するものとする。

- 1)年間事業計画
- 2)学習館管理運営要領の改正
- 3)学習館が主催する行事の実施計画
- 4)学習館内展示物等の改装
- 5)広報計画
- 6)その他、学習館の管理運営に関する重要事項

2. 省略

3. 運営委員会は、年1回以上開催することを原則とする。

表 3.1 天竜川総合学習館 運営委員会 委員

議長	飯田市 建設部長
委員	天竜川上流河川事務所 副所長
委員	飯田市教育委員会 教育次長
委員	飯田市美術博物館 副館長
委員	飯田市小中学校 校長会推薦者（現在空席）
委員	一般財団法人 飯田市天竜川環境整備公社 理事
委員	一般財団法人 飯田市天竜川環境整備公社 評議員（若干名）
委員	飯田市川路水害予防組合長
委員	飯田市立川路、龍江、竜丘小学校 PTA 副会長（の内 1 名の女性）
事務局	天竜川総合学習館 事務局

3.3.2 企画会議

学習館内施設及び展示物の有効活用等による学習館の円滑な運営を図るために、関係幹事等で構成。企画会議²⁾は年 1 回以上の開催を行うこととしています。毎年、運営委員会の前、1 月頃に開催しています。

2) 企画会議は企画部会と称する場合もあります

表 3.2 天竜川総合学習館 企画会議 構成員

議長	飯田市建設部 管理課長
幹事	飯田市立川路小学校 総合学習担当教諭
幹事	飯田市立龍江小学校 総合学習担当教諭（環境教育担当）
幹事	飯田市立竜丘小学校 総合学習担当教諭（地域連携担当）
幹事	天竜川上流河川事務所 調査課長
幹事	天竜川上流河川事務所 管理課長
幹事	天竜川上流河川事務所 飯田河川出張所長
幹事	飯田市教育委員会 学校教育課長
幹事	飯田市産業経済部 観光課長
幹事	（一社）飯田市天竜川環境整備公社 事務局長
幹事	飯田市川路水害予防組合 広報委員長（庶務担当）
幹事	川路まちづくり委員会推薦（女性）
幹事	龍江地域づくり委員会推薦（女性）
幹事	竜丘地域自治会推薦（女性）
幹事	伊那谷自然友の会 会長※
幹事	（株）環境アセスメントセンター 北信越支社※
事務局	天竜川総合学習館 事務局

※ 議長が特に必要と認める者（運営要領 第 4 条 第 2 項）

3.3.3 事務局会議

会議構成員に明確な規定はないが、総合学習館を運営するための事務局の会議。標準的には表 3.3 のようなメンバーが集まります。年度当初の 5 月と、企画会議の前となる 12 月頃に開催しています。

表 3.3 天竜川総合学習館 事務局会議

飯田市建設部 管理課長
飯田市建設部 管理課長補佐
飯田市建設部 管理課 主事
天竜川上流河川事務所 保全対策官
天竜川上流河川事務所 飯田河川出張所 管理第一係長
飯田市美術博物館 学芸員
飯田市 川路自治振興センター長
飯田市 龍江自治振興センター長
飯田市 竜丘自治振興センター長
天竜川総合学習館 館長
天竜川総合学習館 教育担当
天竜川総合学習館 広報担当
天竜川総合学習館 事務員

3.4 学習館運営費用

建ものは国土交通省が保有するもので、建ものの修繕などは国土交通省が負担し、通信費やガス・水道料は飯田市が負担しています。

飯田市から教育担当、国土交通省から広報担当を配置し、活動にかかる費用はサポートスタッフなどのボランティアを最大限活用。その他に必要な経費は（一財）飯田市天竜川環境整備公社が行う周辺の砂利採取事業から支出。砂利採取事業により、河川の土砂堆積を軽減させて地域の安全を維持するとともに、その収益の一部で環境防災学習を支えています。

この地域にとっての砂利採取事業は、地域貢献としても重要な役割をになっている産業であるといえます。

4 20 年間の活動内容

4.1 データから見る活動

図 4.1 は 2002（平成 14）年 7 月から 2022（令和 4）年 3 月までの利用者数、一般来館者数、講座利用者数をグラフにしたもの。開館から 5～6 年は知名度も低くかったのか、徐々に利用者が増えて利用者数は高い水準を保っているといえます。同種の施設が開館後に利用者数の伸び悩みや低下をかかえることもあると聞きますが、当館は地域に愛され、利用していただいていることがわかります。主な利用者である子どもたちが年齢とともに離れていくと推測されますが、ほぼ同数の新しい子どもたちが利用するサイクルが定着しているといえるでしょう。

日本では 2020（令和 2）年 1 月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大とその対策により、出かける機会が激減。このような社会情勢にあって、当館も休館や活動縮小を余儀なくされており、コロナ前の社会活動復活が待たれるところです。

ここで、リクエスト講座にはかわらんべ祭りでの講座を含んでいます。したがって、利用者の落ち込みはかわらんべ講座が令和 2 年、3 年と新型コロナウイルス感染症拡大を防止するために中止され、リクエスト講座の利用者数の落ち込みはこのことも大きく影響しています。

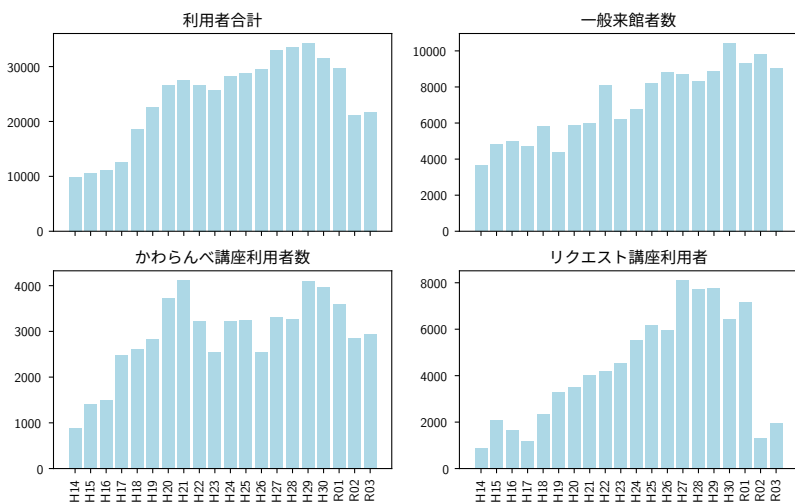


図 4.1 かわらんべ利用者推移

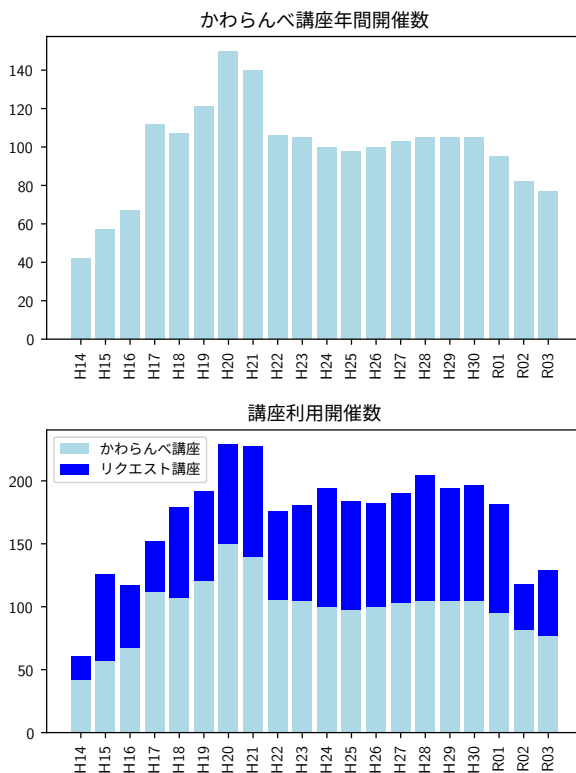


図 4.2 年間講座開催数

講座の開催状況はかわらんべ講座が年平均 100 講座で、学校の総合学習やその他のリクエストに応じた講座が年間平均 100 弱の講座で、あわせて約 200 講座を実施しています。

リクエスト講座の最近の特徴として、修学旅行・社会見学では「防災学習」「外来生物」「SDGs」に関する講座希望が増えてきています。

季節的な集計では春～夏の利用が多く、リクエスト講座が 7 月に集中していますが、これは先述したとおり、かわらんべ祭りの講座をリクエスト講座に集計していることが主な要因です。リクエスト講座利用者が 7 月に突出しているのはこのためです。

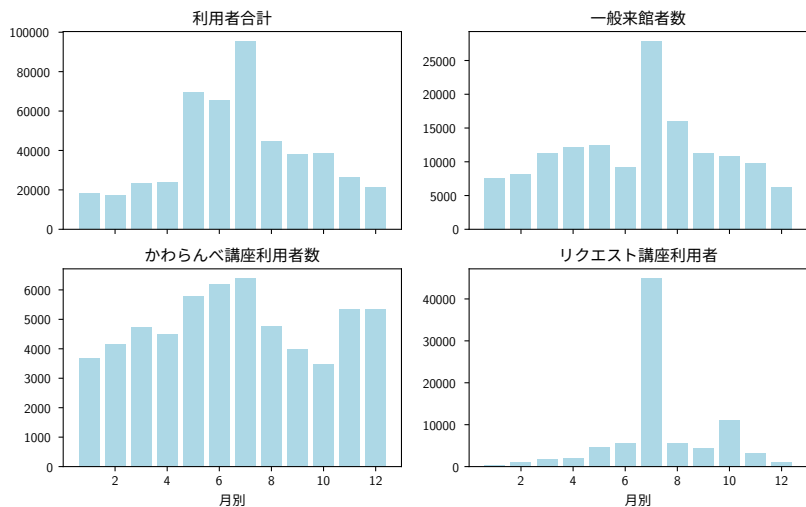


図 4.3 月別かわらんべ利用者 (2002 年 7 月～2022 年 3 月)

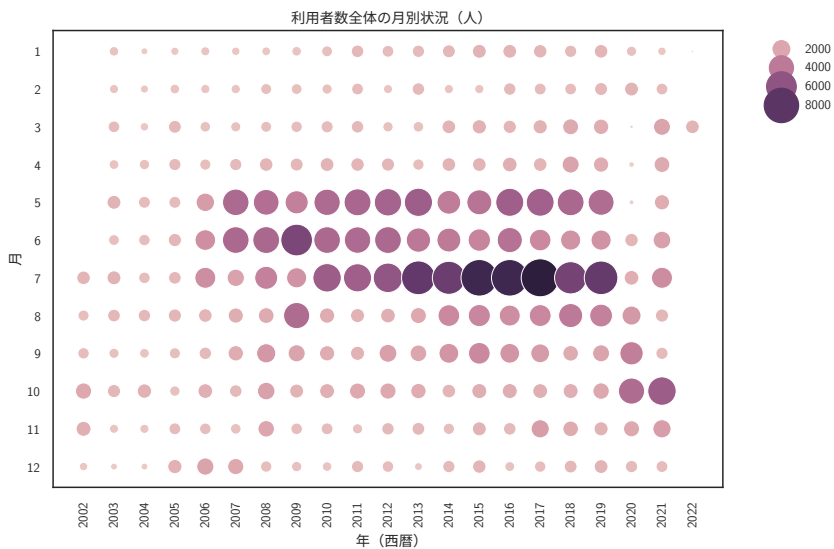


図 4.4 年月別かわらんべ利用者 (全体)

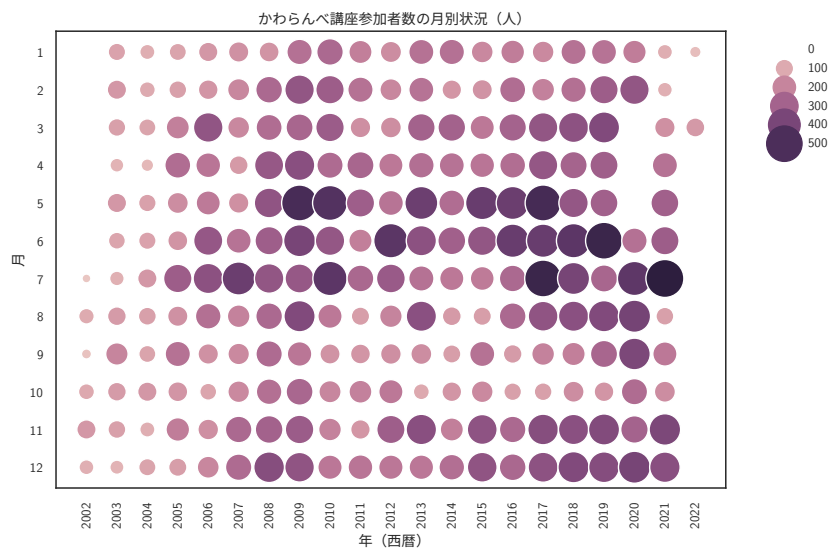


図 4.5 年月別かわらんべ講座参加者数

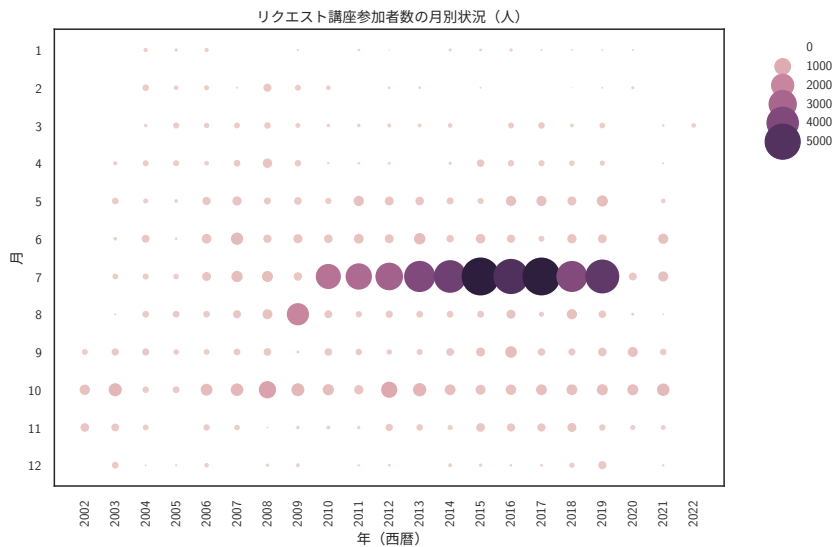


図 4.6 年月別リクエスト講座利用者

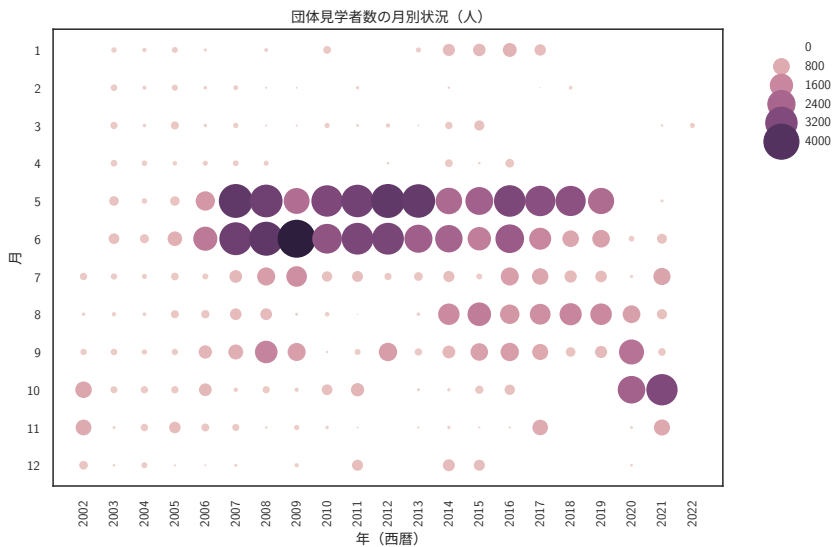


図 4.7 年月別団体見学者数

4.2 かわらんべ祭り

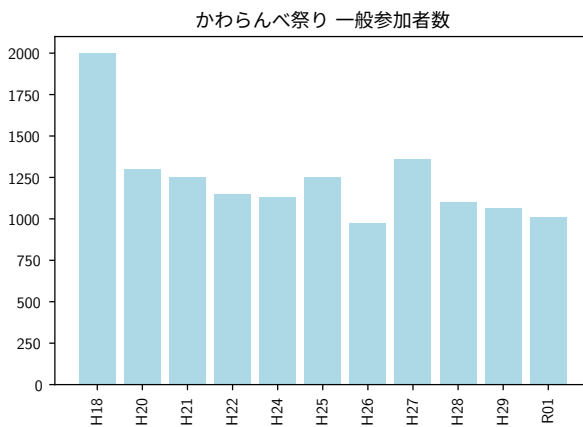


図 4.8 かわらんべ祭り 一般参加者数

2006（平成 18）年から毎年 7 月に行っているイベント。初回の 2006（平成 18）年は 7 月 15～16 日の 2 日間にかけて行われた行事だったのですが、第 2 回からは 1 日のイベントとなっています。

それほど宣伝に力を入れているわけではありませんが、天候が晴天、小雨によらずおおむね 1,000 人を超える参加者を得ており、毎年楽しみにしている人が多い人気の行事です。参加者のアンケートでも「とても楽しかった」「楽しかった」を合わせ、95%以上の好評を得ています。

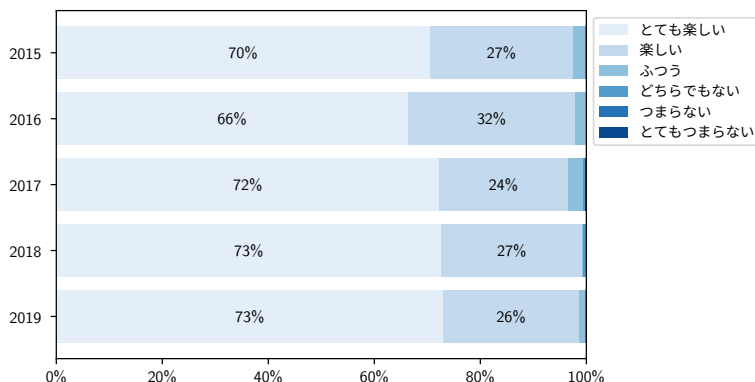


図 4.9 かわらんべ祭り アンケートから

当施設が防災拠点施設ということもあり、防災系の展示やイベントを多く取り入れているところが特色と思います。

ちなみに、2019（令和元）年では防災系の出展として、次のような展示・イベントが行われました。

- ・語り継ぐ「濁流の子」文庫の展示（(株) 環境アセスメントセンター 北信越支社）
- ・防災カードゲーム「なまずの学校」（学習館協力員）
- ・防災クイズ「持ち出し品なあに」（学習館協力員、中部電力（株））
- ・土石流 3D シアター（国土交通省 天竜川上流河川事務所）
- ・放水演習と消防車展示（飯田市消防団 川路分団）
- ・消火器での当てゲーム（川路水害予防組合）
- ・4 択クイズ「ガスメーターの復帰」（シミズ（有））
- ・応急手当のワークショップ（飯田広域消防本部、保健師、学習館協力員）
- ・救急救命普及啓発（飯田広域消防本部）
- ・降雨体験機（国土交通省 天竜川上流河川事務所）
- ・防災カードゲーム（国土交通省 天竜川上流河川事務所）

近年は祭りスタッフに小中高生の「子供協力隊」のボランティアも参加し、祭りの参加者とスタッフが一体となったイベントとなっているところも特徴的です。



図 4.10 2014 年のかわらんべ祭り（防災講座）



図 4.11 2015 年のかわらんべ祭り（自然体験講座）

かわらんべ祭りは参加者とスタッフを合わせると 2000 人近くが集まるイベントです。学習館では人的負担、費用的負担を考えると、今後同規模のかわらんべ祭りの継続は難しく、規模を縮小した「協力員による手作り夏休み応援企画」として再スタートすることとしています。

4.3 1 周年記念事業

4.3.1 記念フォーラム

2003（平成 15）年 7 月 6 日（日）に開館 1 周年を記念し、「記念フォーラム」を行いました。基調講演の講師 小丸さんが前日にバスに乗り遅れ、しかも降りる停留所

を間違えるハプニングがありました。当日プレゼント予定だったカブトムシの生育が遅れて当日配布ができなくなったので、急きょ引換券を用意したことも懐かしい思い出です。



図 4.12 1 周年記念フォーラム フライヤー

日時 2003（平成 15）年 7 月 6 日（日）13:00～16:00

会場 飯田市鼎文化センター

内容

1. 開会演奏（雲龍氏の笛）
2. ファミリーコンサート
 - (a) 川の流れをイメージした笛の曲（雲龍氏）
 - (b) 「川で歌おう」「手のひらを太陽に」「怪獣のバラード」「生きている天竜川」（飯田市少年少女合唱団）
3. 基調講演「世界の水問題と子どもたちの活動」（小丸 和恵¹⁾）
4. 活動報告「天竜川で学ぶ」（飯田市立川路小学校 6 年生）
5. その他の催し
 - (a) 効き水

1) 世界子ども水フォーラム事務局長・川と街のフォーラム京都世話人（当時のプロフィール）

- (b) アウトドア 安全テクニック
- (c) 超簡単ロープワーク講座
- (d) かき氷
- (e) 天竜川に関するパネル展
- (f) カブトムシ プレゼント

参加者 約 500 名

4.3.2 特別講座

写真家の宮崎 学さんの特別講座を実施。

日時 2003（平成 15）年 9 月 23 日（火） 13:00～16:00

会場 天竜川総合学習館

内容 特別講座「自然からのサインを写す」、デジタルカメラの撮影会と講評

講師 宮崎 学

参加者 42 名

4.3.3 「天竜川ものがたり」の募集

展示物で未作成だった「天竜川ものがたり」の募集を行った。

応募期間 2003（平成 15）年 6 月 16 日～同年 12 月 25 日

審査方法 展示による投票、インターネット、特別審査員（北島 新平、宮下 和男）

審査会 2004（平成 16）年 3 月 23 日

募集伝説

1. 貝暮ヶ淵の妖精（最優秀賞：川本 幸恵、優秀賞：塩原 幸）
2. 貝暮ヶ淵物語（最優秀賞：名取 はるな、優秀賞：山路 徹、飯田市立緑ヶ丘中学校 1 年 4 組²⁾）
3. アメノウオの伝説（最優秀賞：大田 千鶴、優秀賞：原田 佑樹・彩香）
4. 天竜川のカワランベ（最優秀賞：飯田市立三穂小学校 5 学年、優秀賞：山路 夢）
5. 犬石（最優秀賞：立花 和樹、優秀賞：寺本 恵梨、飯田市立緑ヶ丘中学校 1 年 4 組³⁾）
6. 文永寺の鐘（最優秀賞：中川 雅子、優秀賞：今村 輝夫、飯田市立下久堅小学校 6 年⁴⁾）

2) 伊野 沙由美、伊藤 玲奈、塩沢 奈都美、有賀 裕己、池上 幸佑、小笠原 大地、塚平 大樹、中島 宏之
 3) 三石 留美、気流 剛志、南嶋 隆介、下平 愛子、代田 沙織、山岸 彩音
 4) 藤井 真里奈、三石 さゆり、宮内 あゆみ

4.4 3 周年記念事業

3 周年記念事業として、大型紙芝居「ももたろう・舌きりすずめ」（人形劇団「ぼけっと」）、人形劇公演「すきすきぶっとび梅ばあちゃん」（人形劇団「ほんわかシャッター」）を実施しています。

- 平成 16 年度事業

内容 大型紙芝居「ももたろう・舌きりすずめ」（人形劇団「ぼけっと」）

日時 平成 16 年 8 月 6 日（日） 10:30～12:00

会場 天竜川総合学習館 かわらんべ 総合学習室

観客数 約 50 名

- 平成 17 年度事業

内容 人形劇公演「すきすきぶっとび梅ばあちゃん」（人形劇団「ほんわかシャッター」）

日時 平成 17 年 8 月 5 日（金）

会場 天竜川総合学習館 かわらんべ 総合学習室

観客数 約 100 名

4.5 10 周年記念事業

10 周年記念事業として、次のような取り組みを実施しました。

展示 東日本大震災のパネル展示、治水対策事業関係文書および川路水防史等水防資料の展示、36 災害各種資料の展示 等

かわらんべ祭り 10 周年を記念して NPO 法人プラスアーツによる「イザ、カエルキャラバン」を実施

- 防災カードゲーム「なまずの学校」
- 防災クイズ「持ち出し品なあに」
- 防災カードゲーム「シャッフル」
- 防災すごろく「グラグラタウン」
- 水害紙芝居
- お玉劇場
- 紙で食器を作ろう
- ジャッキアップゲーム
- 対決!! バケツリレー
- 消火器で的当てゲーム
- 応急手当ワークショップ
- 4 択クイズ「ガスメーターの復帰」

4.6 20 周年記念事業（予定）

- ・施設のリフレッシュ工事（完了）
- ・20 周年記念バナーとロゴの作成（完了）
- ・本冊子（語り継ぐ天竜川シリーズ第 66 巻）の作成
- ・20 周年記念かわらんべ講座
- ・かわらんべ夏休みスペシャルウィーク（従来のかわらんべ祭りの資産継承）
- ・天竜川総合水防演習への参加
- ・砂防フィールドミュージアムとの協働
- ・広報誌への 20 年の歩み記事掲載
- ・開館 50 万人達成記念
- ・20 周年記念 館内展示：活動記録・写真・資料の展示、水辺の楽校 20 年の変遷展示
- ・上記展示のほか、区行事への出展



図 4.13 20 周年記念バナーとロゴ

4.7 その他の活動

4.7.1 たねの会

2016 年から活動が始まっている飯田下伊那の公共施設・団体で構成されるグループで、当館もそのグループメンバーのひとつとなっています。自然科学等を中心に様々な学習を地域全体で学べるよう、この会の活動と連動したイベントを企画しています。

4.7.2 飯伊釣り文化を伝承する会

2014（平成 26）年 4 月に下伊那漁業協同組合、（株）天龍、（株）飯田まちづくりカンパニー、（公財）日本釣振興会県支部、飯伊地産活用調理師会と当館の 6 団体で発足。水産庁の「水産多面的機能発揮対策事業」の助成を受け、ヨシ刈り等、河川清

掃、アレチウリ等外来植物駆除、稚アユ放流、アユ観察会、アユ釣り体験、ニジマス釣り体験と釣った魚の賞味体験などを実施しています。

4.7.3 水災害被災地支援の募金活動

2018 年西日本豪雨災害、2019 年台風 19 号災害、2021 年 7 月豪雨災害の被災地支援として、各年のかわらんべ講座参加者が募金活動に参加しました。2021 年は講座で収穫したジャガイモの販売金を全額募金しました。

■2021年

7/31 7月豪雨災害の被災地支援 夏休みスペシャル講座参加者が支援に協力



夏休みスペシャル講座の会場では、R3 年7月豪雨災害の被災地支援のための義援金の募金活動も行い、賛同いただいた多くのみなさんに協力いただきました。義援金は日本赤十字社を通じて全額を豪雨災害の被災地に届けました。お気持ちに感謝いたします。



図 4.14 2021 年 7 月豪雨災害への義援金募金

5 広報活動

5.1 インターネット

しばらく国土交通省 中部地方整備局のサーバ内、天竜川上流河川事務所の Web ページにぶら下がる形で運用していましたが、インターネットページのより積極的な活用を図るため、2017（平成 29）年 7 月に独立したサーバに移行しています。

独立したことで国のサーバ運用規定から解放されるため自由度が高くなり、WordPress による利便性の高いページとして生まれ変わりました。例えば、かわらんべ講座の申し込みなどが Web でできるようになっています。

ドメイン名に広くネットワークを意味する“.net”を採用しています。

自然体験を通じて、川に親れ川を愛せ、災害から身を守る知識や自然環境への理解を深める。

お気軽にお問い合わせください
TEL 0265-27-6115
受付時間 9:00~17:00
入館：無料／休館日：月曜・祝日の翌日

地域とともに20年
天竜川総合学習館 **かわらんべ**

HOME | [かわらんべとは](#) | [天竜川 防災拠点](#) | [かわらんべ講座](#) | [リクエスト講座](#) | [施設案内](#)

**伊那谷の自然を知り、過去の災害を知ることが
水防災の第一歩**

天竜川防災拠点として【流域治水】に取り組みます

お知らせ

2022/05/07 [【講座】22日「子ども水防講座」参加予定のみなさんへ＜追記あり＞](#)

2022/05/07 [【午後講座】14日と28日講座では午後の部への変更を受付中](#)

2022/04/13 [【講座】6月講座の申込受付日と受付方法について](#)

かわらんべ講座

リクエスト講座

かわらんべ祭り

かわらんべ講座の予定

2022年5月						
月	火	水	木	金	土	日
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

各講座・施設利用のお申し込み

図 5.1 インターネットページ
<https://www.kawaranbe.net/>

5.2 広報かわらんべ

広報誌として発行し、2022年3月現在233号を数える月刊広報誌。2002（平成14）年11月の発刊当初は「かわら版」というタイトルだったのですが、2009（平成21）年7月以降は愛称として地域に定着してきた「かわらんべ」を使用することとし、「広報誌かわらんべ」としています。

広報誌は5,000部印刷を行い、川路・龍江・竜丘地区周辺の小学校、幼稚園、保育園、飯田市内の各公共施設、図書館などに配布。天竜川総合学習館のインターネットページでもPDF形式で公開¹⁾していますから、ぜひご覧ください。

ちなみに、2011（平成23）年2月号が100号記念号。2019（令和元）年7月号が200号記念号。



図 5.2 広報かわらんべ（創刊号・100号・200号）

5.3 パンフレット

いずれもA4出力で3つ折りのもの。初版は2002（平成14）年7月開館当時に作成したもの。1年を待たず活動も安定してきたので、実際の講座の写真を取り入れて第二版に改定しました。2020（令和2）年に更新した第四版が現在のパンフレットです。

図 5.3、5.4 は表紙をならべたものです。

1) 2012（平成24）年4月からのバックナンバーも閲覧可能。



図 5.3 パンフレット（初版・第二版）



図 5.4 パンフレット（第三版・第四版）

6 想い出座談会

学習館の特徴でもある講座を核とした活動ですが、講座を企画・運営してきた歴代の教育担当者に集まっていただき、これまでのいろいろなご苦労を振り返っていただくこととしました。とても興味深いお話を聞くことができました¹⁾。

日時 2021（令和3）年12月23日（木） 9:30～11:15

場所 天竜川総合学習館かわらんべ 総合学習室

参加者

- 初代教育担当者 今村^{みちのり}理則^氏²⁾
- 二代目教育担当者 堤^{たかし}久^氏
- 現教育担当者 中村^{やすよし}貴俊^氏
- 天竜川総合学習館 寺澤^{のりあき}保義^{館長}
- 天竜川総合学習館 久保田^{ふきこ}憲昭^{広報員}
- 天竜川総合学習館 加藤^{富貴子}事務員
- 記録：天竜川上流河川事務所



図 6.1 座谈会参加者



図 6.2 座谈会の風景

1) 座谈会は、感染症拡大防止の対策を十分行って実施しました
2) 2022（令和4）年3月16日に不慮の事故でお亡くなりになりました。

講座を中心とした活動

加藤 学習館の建設計画当時、どのようないきさつがあったのでしょうか。

今村 当時の建設省は、治水資料館として要望していた川路水害予防組合に相談したのではないかな。自分は組合の役員でいたこともあり「学校の先生だったし、お前が中心になってやってみては」的に声がかかった。まずは、似たような施設として東京の荒川知水資料館など2か所ばかり見に行った。行ってみて、このような施設の運営方法は自分の思っているものとは違ったんだ。展示は素晴らしいんだけど、人がいないんだな。もっと人のたくさん集う施設がいいと思い、それで講座を中心とした施設活用を計画した。

それから、協力員体制。ボランティアで講座の運営補助として来ていただき、いずれは講師となっていただけのようにと地域の人たちにいろいろ声をかけた。この講座中心の活動とその運営に協力員を組織することは、今の活動にも生きているのだと思う。

加藤 私も別の機会に東京都北区にある荒川知水資料館「amoa」に行きましたよ。「せっかくなら、なんでも川に関連付けたテーマとして講座をやるといい」とアドバイスを受けました。

それから、滋賀県立琵琶湖博物館に今村先生を含めて協力員として声をかけた何人かとマイクロバスで行って、そこでのサポートメンバーというしくみは参考になりました³⁾。

寺澤 「水」「川」というテーマにこだわっての講座は、かわらんべの特徴を物語っています。これから先もこのコンセプトは大切にしていきたいと思います。

今村 そして、最初は研究ということも重視したいと思っていた。餅つきといっしょに研究発表のようなこともやったなあ。この研究活動がきっかけで、学校を卒業してから研究者の道へと進んでいった子どもたちもいます。その代わり、幼い子どもたちには難しかったかもしれない。

堤 自分の反省として、自然科学分野はがんばったけれど防災分野は手薄だった。今は防災にも力を入れていますね。

加藤 防災といえば大地震への備えというのが当時の世間一般の考えだった。起震車で地震体験みたいなものをかわらんべ祭りに取り入れていって、徐々に水害についても取り組んでいった。今では月1回弱くらいに防災関係講座を企画していくようになっています。特に今年は伊那谷の大水害である「^{きぶろく}三六災害」から60年なので、展示も充実させていますよ。

中村 花崗岩が風化すると崩れやすくなるとか、水害での避難生活体験とかやってい

3) 平成17年11月26日、県立琵琶湖博物館と土岐川観察館へ視察。

ます。飯田市の危機管理室からの全面協力で行った避難所の設営は、やってよかったです。防災講座は今後も充実させていきたいと思います。

加藤 さて、近年の特徴としてリクエスト講座の充実がありますね。

中村 小学校が社会体験として利用する、保育園が親子遠足の目的地にするなどでリクエスト講座が増えています。リクエスト講座に初めて来ていただき、そのあと気に入ってもらっての再来訪も多くなっています。幼児期の自然体験は、心身の発達に良い影響があると思います。

加藤 幼児期に自然体験があるのとないのでは、自然科学への興味が大きく違うような気がしますね。

水辺の楽校いいだ

加藤 教育担当者が堤先生にかわって、学習館の近くにある水辺の楽校の活用が進んだように思います。

堤 学習館の前にあるクワ畑や河原は子どもたちの活動の場としていいなって思ったので、水辺の楽校のせせらぎに天竜川に生息する魚類を誘導することを考えたのです。水草を生やしたり小川の流れに石を配置するとか、流れに変化をつけるんです。そうして 2〜3 年たったら、天竜川から魚が上がってくるようになった。「ああ、これはいい教材になる」と思って、魚やザリガニ、水生昆虫なんかを採るようなこともして、子どもたちの人気の講座になったのです。3 回くらい採っては放し…でしたから、魚には気の毒な事をしたなって思います（笑）。私もこういう自然体験は、幼児期にかけがえのないものだって思っています。

それから、当時は水辺の楽校には木がなかったんです。一帯が草原だったので、草刈りが大変だった。それこそ夏は炎天下で作業がきつかったのです。今でこそ話せますが、ヌルデ、ネムノキ、サクラ、モミジと、天竜川上流河川事務所には内緒でこっそり幼木を植えました。今来てみるといい感じに木が育っているのですね。びっくりしました。

中村 今の水辺の楽校の環境を当たり前のように思っていました、苦労して整備してきた結果なのですね。ありがたく講座のフィールドとして利用しています。



図 6.3 2003 年の水辺の楽校いいだ



図 6.4 2017 年の水辺の楽校いいだ

久保田 2009（平成 21）年にはミクリとタコノアシを植えましたよね。今ではそれが世代交代しながら育って定着しています。

堤 ミクリは抽水植物で金平糖のような実ができる植物。諏訪湖起源の植物です。天竜川には支川合流部などワンドのようになった場所に漂着して生育しています。タコノアシは花を上から見ると、吸盤を配したタコの足のように見えることから名づけられた植物です。いずれも河川工事で移植が必要になったと天竜川上流河川事務所からいただいたもので、希少種で絶滅が危惧されている植物になり

ます。

久保田 ミクリもタコノアシも、流域ではもっとも充実した生育地になっています。絶滅危惧種の種の保存の場所になっている点も、この水辺の楽校の特徴ではないでしょうか。



図 6.5 水辺の楽校いいだのタコノアシ



図 6.6 水辺の楽校いいだのミクリ

外来種駆除活動

堤 水辺の楽校の整備で苦労したのはアレチウリだったんですよ。私がいたころから周辺で猛烈に増えてね。この地区全体にアレチウリが広がった。それを逆手に「講座の教材として生かそう」と思って、子どもたちとアレチウリ駆除をやったり植物の講座として取り上げました。いま、どうなっていますか？

中村 毎年7月には飯田市の河川清掃といっしょになってアレチウリ駆除していますが、あまり変化がないのかな。放置しておけば一面アレチウリになってしまうのだから、それなりに効果があるのかもしれませんが。

堤さんが引き継いだ当初はアレチウリがなかったってことですか。

堤 当初はなかったですよ。だんだん広がってくるなって思っていたら、瞬間でしたね。河原のヤナギの木を覆って、たくさんあったヤナギがなくなってしまったのですから。



図 6.7 リクエスト講座での駆除（2019 年）

寺澤 この地区のまちづくり委員会でも積極的に駆除活動をしているのですが、「刈り取り」よりも「抜き取り」のほうが効果があるのだとわかってきたので、来年からは抜き取り駆除に移行するのかな。学習館の活動が地域に広がったということの意味は大きいと思います。

加藤 2005（平成 17）年 8 月には 100 名の参加で「アレチウリ退治とラフティング大作戦」というのをやりましたよね。アレチウリ駆除だけじゃ「ツライだけだ」というので、楽しみイベントとセットにしました。タイヤのチューブに乗って天竜川を下る「チューブ下り」とのセットもやりました。

堤 私はアレチウリ駆除の方法として、ワラビによる抑制効果を考えました。アレチウリが繁茂しているところにワラビを植えます。8～9 月頃にそのほかの植物といっしょにアレチウリを刈り取ってしまえば、アレチウリの実がつきにくくなるのです。ワラビと一緒に刈り取ってもすぐ成長しますから、ワラビが衰退することはない。そうしているうちにアレチウリよりもワラビが優先してくるし、人がワラビを採取するときにアレチウリを抜いてくれれば、より効果的に抑制できる。

中村 なるほどねえ、この地区にワラビがたくさんあるのを不思議に思っていました。アレチウリ防除のために植えていたものなのですね。今後、大切にしたいと思います。

堤 堤防への導入はどうか。ワラビの枯れた根にミミズがつき、それを捕食するモグラが堤防に侵入すれば治水上、問題かな。

今村 ワラビの根の深度からすれば、あまり心配ないと思いますよ。

久保田 ウシガエル、オオキンケイギクなどの駆除も、講座として企画しました。利用するフィールドの環境改善は利用者で…というのも、意味があると思います。その成果として水辺の楽校では在来の生物が増え、外来種駆除は環境改善効果のあるものでした。

桑園の歴史と講座

今村 日本三大桑園^{そうえん}というのは、福島県阿武隈川福島盆地、徳島県吉野川中流部と長野県天竜川の川路。治水対策事業でもクワの木を残してもらうように頼んだ。今年の講座をみるとクワの木やカイコを使った講座がありますね。

堤 かわらんべ講座でクワの実はジュースにしたりジャムにしました。クワはコウゾの仲間だから紙にすいて紙をつくったり、葉にも栄養があるので天ぷらに、草木染め、カイコを飼って絹糸を紡いで小さな織物とかマユ細工とか、そのすべてがよい講座の材料になった。

加藤 川路小学校では 2006（平成 18）年から卒業する 6 年生がカイコを飼ってマユを取り、そのマユを使って卒業式で胸につけるコサージュを作るリクエスト講座を企画しました。黄色い脚のカイコはマユも黄色になるので、白と黄色のマユできれいなコサージュができます。小学校の卒業式では卒業生がそのコサージュを胸につけ、4 月の中学校の入学式では保護者がそれをつけるという行事として続いています。飾っておけば思い出にもなるし、地域を育んだ産業だったことに思いをはせるといふ、この地域独特の講座にもなりました。

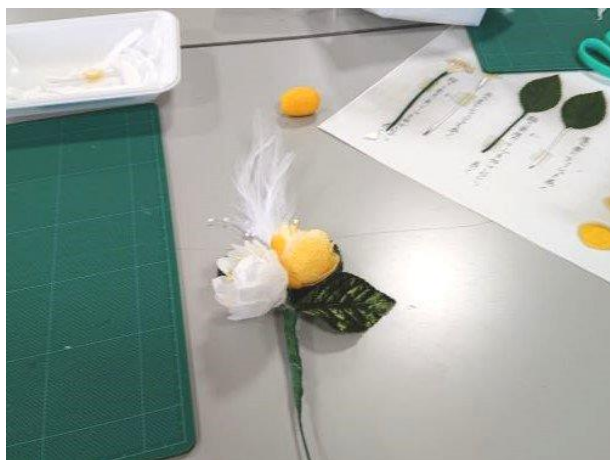


図 6.8 講座でのコサージュづくり (2020 年 11 月 29 日)

講座のターゲット

堤 今村先生から教育担当を引き継いだとき、徐々にかわらんべ講座の参加者が減っていくのに焦りましたよ（笑）。今まで講座に参加していた子どもたちは、学年・年齢が上がるとスポーツに興味が出たり学習塾が忙しくなったり。どうしたものかと悩んでいたのですが、その年のかわらんべ祭りの参加者を観察してみると、親に連れられた幼稚園児とか小学校低学年が多いことに気が付きました。この年齢層をターゲットにすれば講座参加者が増えるのではないかと考えて、講座の企画を練っていきました。その結果、講座の参加者が増えたのでホッとしたものです。

今村 私としては対象は最初から小学生と思っていたよ。幼児は自分では手に負えないから（笑）。

堤 成人向けの講座は、加藤さんがいろいろ考えてくれました。写真講座、コケ玉づくり、絵手紙教室などです。

加藤 そう、今では幼児から高齢者までの幅広い層が集まるようになり、生物多様性？（笑） いやいや、SDGs の「4. 質の高い教育をみんなに」ですね。

堤 当時、何が幸せだったかといえば、講座を終えた子どもたちが喜んで帰る、その後ろ姿を玄関で見送るときだったね。

全員 うん、うん。

広報について

久保田 東日本大震災（2011 年 3 月 11 日）で空間放射線からの防除ということで、野外活動が制限されるようになると、いったん少なくなった講座参加者は簡単に戻ってきませんでした。そこで、近隣の小学校に講座のチラシを配布しました。それなりに効果はあったものの、長くは続きませんでした。今度はチラシの代わりに広報誌を配布することとし、広報誌もリクエスト講座の結果を大きく取り上げる内容にリニューアル。かわらんべでの講座を紙面で追体験することで、講座の内容をより深く印象付け、かわらんべのリピータ確保を考えたのです。その結果わかったのは「よい講座を提供すればリピートが増える」という、あたりまえで単純なものでした。

加藤 そうか、講座提供水準が利用者数と関連しているということですね。

久保田 広報誌なのですが、記事やコラムでは子どもたちには少し難しい内容や表現も含んでいます。そういう難しいことやっていることを知ってもらうことも、意味があると思って。

施設建設・運営について

今村 施設を作るとき、国ともずいぶんやりあったよ。今思うとわがままも通してもらえたと思う。

寺澤 20 年を経て施設の不具合も出てきていまして、現在改修工事が進んでいます。今後は施設内の展示などの中身も考えていかなければならないと思っています。

国の施設に市と国が協定に基づいて協力して運営を支えています。施設運営には国も市も税金が投入されています。その投資に見合う効果が地域に得られているのかについては、いつも頭にありながら運営しています。

共同で運営している国土交通省 天竜川上流河川事務所の職員の皆さんの中には、学習館に来たことのない人もいられるかもしれません。ぜひ、かわらんべの講座は体験していただきたいと思います。そういう機会を作ってほしいですね。

今後もいろいろ苦勞をしなければならないと思いますが、施設の持続可能な発展を目指して行きたいと思います。

集まっていたいただいた皆さん、ありがとうございました。

7 利用者アンケートから

7.1 現在の利用者の声

この冊子を編纂するにあたり、運営スタッフ側だけではなく利用者の反応も拾っておきたいと思いました。

比較的頻繁に講座に参加している 19 組の子どもたち（年中～中学校 1 年生）に、今までの講座の中で印象に残ったものを複数上げていただきました。川遊び、防災、フィールドワーク（川遊びを除く）、クラフト、食材系に分類してみると、防災系は弱く川遊びは食材に匹敵する人気があります。フィールドワークとともに、野外での体験講座をあげる子どもは半数となります。食材系やクラフト系の講座もフィールドの活用が多いので、野外での講座や野外活動を組み合わせた講座は印象に残るのだと想像されます。

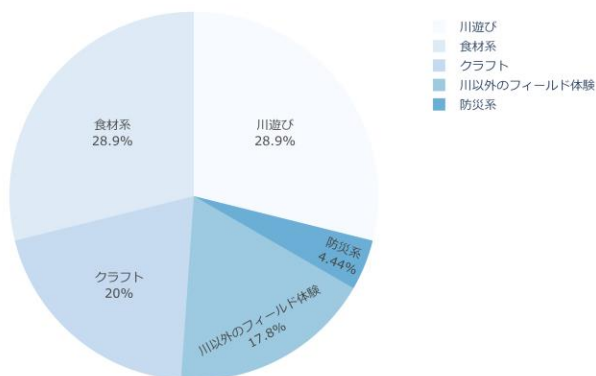


図 7.1 かわらべ講座で印象に残ったもの

7.2 講座卒業生の声

今回、かわらべ講座の 7～10 割に参加していた皆さん（講座卒業生）にも、当時を振り返ってメッセージをいただきました。

遠くは京都府や愛知県に居住の方もおりますし、大学院生、お医者さんの卵、社会人、地域で農業をされている方など職種も様々です。

以下にメッセージを掲載しますが、私たちスタッフにとって、何よりもありがたううれしいメッセージでした。

かわらんべに期待すること

子どもの遊び場、学び場であり続けてほしい。

親しみやすさ。今でも変わらず声をかけてくださるのはありがたいです。

参加者が講座が終わった後でも、自ら自然科学等に好奇心、興味を持ち続けることができる講座を作っていくことが重要と考えます。

天竜川を、自然を、このまま維持してください。

子どもたちに自然のおもしろさなどを教えていってほしいです。

普段の生活では触れる機会の少ないものに触れることができる講座を続けていってほしいです。

自分に与えた影響について

地元の魅力の一つと考えるようになった。

感受性豊かな時期に色々な人やモノに出会わせてくれて、世界を広げてくれた場所。自分たちにとって良いタイミングでオープンしてくれたので、ありがたかったです。生活の一部でした。

かわらんべのおかげで、自然に対し興味を抱くようになり、それが自然と人体や生理学の興味へ移るようになったため、かわらんべのおかげで今の自分がある。

かわらんべがきっかけとなり、自分の身の回りの自然等の幅広い分野への好奇心が養われたと考えます。

趣味の“鳥”にのめり込み、今では仕事でも“鳥”の業務ができるようになりました。また、普段知ることのできない自然について学べました。

当時（小～中学生時代）は「かわらんべが楽しい」という理由で、たくさんの活動に参加していました。この経験を通じて、自然や動植物への理解を深めることができたと思います。

現在、自然や動植物好きが講じて、農業関係の仕事をしています。かわらんべでの、かけがえのない経験が私の土台になっていると思います。

地域の方々とかかわることが増えました。いろんな事に興味を持つようになりました。

自分が学校に行っていなかったため、家の外（室内、という意味ではなく）に出れた唯一の場所であり、家以外で自分に自信が持てる場所でした。

野鳥のこと、植物、川、自然のことはもちろんですが、自分を育ててくれた場所です。

いつか子供が出来たら連れていきたい。その子たちも通ってくれたらな。

付録 A 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

A.1 休館措置

- 2020（令和 2）年 2 月 28 日～5 月 31 日 休館
- 2021（令和 3）年 1 月 18 日～2 月 7 日 休館
- 2021（令和 3）年 8 月 20 日～9 月 12 日 休館
- 2022（令和 4）年 1 月 9 日～3 月 7 日 休館

A.2 中止イベント

- 2020（令和 2）年 7 月 かわらんべ祭り中止
- 2021（令和 3）年 7 月 かわらんべ祭り中止

A.3 その他対応

- 2020（令和 2）年から、臨時休校中の学校への広報誌配布は、地区回覧に変更
- 2020（令和 2）年、マスコミ・情報誌への講座情報提供を一時休止
- 2021（令和 3）年、講座の受講者数の上限を 30 名に制限。飯田市の講座では 15 名に制限

付録 B 利用状況データ

表 B.1 利用状況 (H14～H17)

年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H14	2002	7	349	-	176	3	31	-	-	-	800	1,356
H14	2002	8	752	-	38	7	96	-	-	-	61	947
H14	2002	9	627	-	128	3	40	6	139	-	58	992
H14	2002	10	427	-	899	4	101	6	439	-	21	1,887
H14	2002	11	311	-	815	5	147	7	304	-	38	1,615
H14	2002	12	159	-	247	3	88	-	-	-	106	600
H14	2003	1	239	-	96	6	120	-	-	-	276	731
H14	2003	2	243	-	142	6	148	-	-	-	150	683
H14	2003	3	548	-	171	5	124	-	-	-	194	1,037
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H15	2003	4	425	5	147	4	76	4	69	3	47	764
H15	2003	5	755	7	303	5	149	8	179	4	28	1,414
H15	2003	6	305	17	376	4	113	3	54	8	55	903
H15	2003	7	1,016	6	129	4	84	5	134	4	56	1,419
H15	2003	8	761	3	62	6	139	1	17	9	219	1,198
H15	2003	9	189	9	138	6	199	9	215	7	71	812
H15	2003	10	255	9	162	6	139	12	698	3	26	1,280
H15	2003	11	249	2	28	6	126	9	249	3	19	671
H15	2003	12	110	2	23	3	79	7	187	5	46	445
H15	2004	1	193	1	60	4	91	4	75	1	23	442
H15	2004	2	179	4	53	4	100	4	176	4	55	563
H15	2004	3	371	2	40	5	117	3	47	3	29	604
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H16	2004	4	475	4	100	3	63	3	145	5	60	843
H16	2004	5	573	4	99	5	122	4	103	4	182	1,079
H16	2004	6	240	7	268	4	120	7	254	6	115	997
H16	2004	7	463	4	84	8	148	5	151	9	160	1,006
H16	2004	8	575	2	45	8	127	4	183	12	229	1,159
H16	2004	9	258	5	92	5	115	6	218	4	73	756
H16	2004	10	825	7	175	6	148	5	171	9	186	1,505
H16	2004	11	266	9	182	6	91	5	136	1	6	681
H16	2004	12	176	4	118	4	118	1	15	2	15	442
H16	2005	1	286	5	117	5	117	2	42	1	15	577
H16	2005	2	306	6	125	6	125	2	87	6	105	748
H16	2005	3	568	7	211	7	211	6	150	5	95	1,235
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H17	2005	4	561	1	68	10	266	5	147	6	67	1,109
H17	2005	5	518	7	295	6	175	3	55	2	42	1,085
H17	2005	6	393	11	699	7	158	2	25	1	10	1,285
H17	2005	7	459	6	192	17	320	5	128	4	92	1,191
H17	2005	8	560	6	211	10	163	4	184	5	171	1,289
H17	2005	9	403	3	130	10	253	3	125	3	32	943
H17	2005	10	320	8	176	11	156	10	189	1	5	846
H17	2005	11	409	6	437	9	220	-	-	-	-	1,066
H17	2005	12	285	1	15	5	132	1	20	3	1,028	1,480
H17	2006	1	249	1	30	7	149	3	72	3	170	670
H17	2006	2	250	2	42	7	153	2	102	7	149	696
H17	2006	3	295	2	40	13	346	2	121	6	67	869

表 B.2 利用状況 (H18～H21)

年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H18	2006	4	393	2	85	8	243	3	90	11	143	954
H18	2006	5	537	14	1,223	10	231	6	276	4	123	2,390
H18	2006	6	285	31	1,900	11	337	7	382	3	43	2,947
H18	2006	7	2,161	3	120	11	361	13	325	6	79	3,046
H18	2006	8	599	10	232	11	260	10	181	5	85	1,357
H18	2006	9	223	8	585	10	165	7	135	4	49	1,157
H18	2006	10	183	9	528	7	113	11	569	7	169	1,562
H18	2006	11	352	9	208	10	169	5	166	9	122	1,017
H18	2006	12	180	2	11	6	191	4	88	6	1,632	2,102
H18	2007	1	413	-	-	6	164	-	-	2	27	604
H18	2007	2	252	4	74	10	194	1	15	8	170	705
H18	2007	3	241	3	91	7	189	5	138	11	149	808
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H19	2007	4	440	7	111	9	141	5	184	13	246	1,122
H19	2007	5	348	44	3,760	9	166	9	341	10	179	4,794
H19	2007	6	318	28	3,538	10	248	10	611	7	123	4,838
H19	2007	7	594	5	531	11	433	11	515	4	48	2,121
H19	2007	8	605	8	446	10	203	5	263	9	142	1,659
H19	2007	9	294	9	734	10	183	7	184	15	302	1,697
H19	2007	10	204	5	64	9	185	12	646	5	75	1,174
H19	2007	11	237	7	162	14	279	4	128	8	64	870
H19	2007	12	327	1	30	9	276	-	-	13	1,246	1,879
H19	2008	1	402	4	49	8	158	-	-	3	30	639
H19	2008	2	278	1	15	11	283	5	267	9	81	924
H19	2008	3	325	1	14	11	269	3	173	5	136	917
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H20	2008	4	406	4	84	13	336	9	365	12	153	1,344
H20	2008	5	299	20	3,508	14	349	8	197	14	169	4,522
H20	2008	6	338	19	3,789	15	316	7	281	12	184	4,908
H20	2008	7	1,501	8	1,071	16	345	10	494	13	231	3,642
H20	2008	8	502	25	455	16	282	8	401	11	136	1,776
H20	2008	9	285	24	1,664	13	276	7	241	12	116	2,582
H20	2008	10	425	6	167	12	259	14	1,223	5	106	2,180
H20	2008	11	497	1	20	11	304	1	12	10	1,107	1,940
H20	2008	12	439	-	-	10	373	2	43	11	128	983
H20	2009	1	398	-	-	11	255	2	18	7	69	740
H20	2009	2	311	1	12	11	345	6	148	11	85	901
H20	2009	3	459	1	13	8	290	5	98	10	133	993
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H21	2009	4	381	-	-	12	368	8	171	10	326	1,246
H21	2009	5	498	21	2,196	16	510	11	237	16	247	3,688
H21	2009	6	312	32	4,725	16	404	14	336	17	1,034	6,811
H21	2009	7	600	19	1,390	14	333	9	291	12	205	2,819
H21	2009	8	1,905	7	29	14	386	17	2,013	15	335	4,668
H21	2009	9	313	12	1,069	11	239	2	34	14	419	2,074
H21	2009	10	294	1	60	12	287	16	686	8	107	1,434
H21	2009	11	447	2	92	11	323	4	49	9	106	1,017
H21	2009	12	281	1	60	8	348	1	60	8	88	837
H21	2010	1	380	1	200	9	279	-	-	4	51	910
H21	2010	2	328	-	-	9	320	3	88	4	81	817
H21	2010	3	223	3	86	8	322	3	53	13	416	1,100

表 B.3 利用状況 (H22～H25)

年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H22	2010	4	588	-	-	9	274	2	24	24	506	1,392
H22	2010	5	567	31	3,234	12	483	5	160	23	281	4,725
H22	2010	6	229	23	2,891	13	343	6	299	30	1,079	4,841
H22	2010	7	1,730	2	352	12	466	27	2,570	22	383	5,501
H22	2010	8	887	3	70	9	233	6	251	16	237	1,678
H22	2010	9	890	1	17	7	161	4	237	16	367	1,672
H22	2010	10	374	9	379	10	195	14	517	13	139	1,604
H22	2010	11	567	2	40	8	204	3	63	16	189	1,063
H22	2010	12	248	-	-	6	235	-	-	19	255	738
H22	2011	1	792	-	-	7	213	1	25	12	150	1,180
H22	2011	2	588	2	35	8	254	-	-	12	174	1,051
H22	2011	3	616	1	25	5	168	2	47	19	310	1,166
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H23	2011	4	623	-	-	11	291	1	24	17	390	1,328
H23	2011	5	533	35	3,463	12	316	6	428	15	208	4,948
H23	2011	6	363	22	3,302	11	215	8	390	25	500	4,770
H23	2011	7	1,589	3	393	10	284	26	2,826	18	297	5,389
H23	2011	8	885	1	5	7	133	5	161	15	260	1,444
H23	2011	9	766	1	119	6	156	9	173	14	240	1,454
H23	2011	10	332	4	578	10	208	10	351	18	380	1,849
H23	2011	11	298	1	12	9	151	2	44	25	314	819
H23	2011	12	182	1	400	7	243	2	22	11	275	1,122
H23	2012	1	203	-	-	7	178	1	8	11	664	1,053
H23	2012	2	219	-	-	8	191	3	30	16	237	677
H23	2012	3	245	1	60	7	173	3	65	26	292	835
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H24	2012	4	639	2	22	9	233	2	35	14	355	1,284
H24	2012	5	479	35	3,776	8	247	7	323	19	281	5,106
H24	2012	6	412	19	3,323	11	467	8	322	23	345	4,869
H24	2012	7	1,821	3	168	9	329	33	3,112	26	482	5,912
H24	2012	8	868	-	-	6	202	6	213	13	280	1,563
H24	2012	9	362	8	1,106	7	169	6	119	23	492	2,248
H24	2012	10	399	-	-	10	232	18	1,069	15	162	1,862
H24	2012	11	386	-	-	10	316	8	223	17	223	1,148
H24	2012	12	232	-	-	7	236	2	30	17	518	1,016
H24	2013	1	284	1	85	8	250	-	-	11	520	1,139
H24	2013	2	514	-	-	8	248	1	30	15	379	1,171
H24	2013	3	350	1	10	7	303	3	62	10	150	875
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H25	2013	4	440	-	-	9	261	-	-	13	275	976
H25	2013	5	791	26	3,678	10	430	6	300	18	218	5,417
H25	2013	6	334	16	2,577	12	361	12	533	13	250	4,055
H25	2013	7	1,995	5	250	8	253	31	3,963	25	1,252	7,713
H25	2013	8	1,057	7	44	10	362	8	188	8	176	1,827
H25	2013	9	1,138	5	177	6	174	8	153	12	336	1,978
H25	2013	10	675	2	29	5	101	12	718	13	175	1,698
H25	2013	11	403	1	17	11	366	6	175	19	255	1,216
H25	2013	12	215	-	-	6	238	-	-	9	87	540
H25	2014	1	386	1	482	7	255	2	40	7	83	1,246
H25	2014	2	260	1	20	7	151	-	-	18	260	691
H25	2014	3	528	1	183	7	303	1	90	16	273	1,377

表 B.4 利用状況 (H26～H29)

年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H26	2014	4	689	1	200	11	249	2	40	17	196	1,374
H26	2014	5	719	18	2,301	10	267	7	206	17	374	3,867
H26	2014	6	508	16	2,460	10	308	6	232	16	425	3,933
H26	2014	7	2,150	3	410	9	233	33	4,349	14	242	7,384
H26	2014	8	741	27	1,504	7	141	7	187	18	670	3,243
H26	2014	9	1,087	2	532	6	131	6	247	14	735	2,732
H26	2014	10	612	1	34	9	153	9	477	8	87	1,363
H26	2014	11	462	2	37	8	212	5	108	12	155	974
H26	2014	12	268	1	473	7	261	5	62	7	68	1,132
H26	2015	1	558	1	510	10	189	1	32	10	129	1,418
H26	2015	2	385	-	-	7	162	1	15	14	134	696
H26	2015	3	663	4	335	6	233	-	-	17	253	1,484
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H27	2015	4	645	1	21	10	241	2	230	18	240	1,377
H27	2015	5	713	19	2,538	10	440	5	155	25	429	4,275
H27	2015	6	553	13	1,800	9	345	7	370	18	396	3,464
H27	2015	7	2,245	5	116	7	226	30	5,876	22	558	9,021
H27	2015	8	726	25	1,825	9	133	7	198	16	497	3,379
H27	2015	9	855	13	1,010	9	250	6	333	24	800	3,248
H27	2015	10	531	4	224	10	187	13	402	14	289	1,633
H27	2015	11	497	1	14	7	354	10	311	18	249	1,425
H27	2015	12	350	1	400	8	351	1	46	13	178	1,325
H27	2016	1	355	1	637	8	223	1	45	12	131	1,391
H27	2016	2	564	-	-	9	269	-	-	11	318	1,151
H27	2016	3	676	-	-	7	299	5	143	18	180	1,298
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H28	2016	4	730	3	250	9	265	7	165	15	151	1,561
H28	2016	5	714	22	3,261	11	431	7	429	24	509	5,344
H28	2016	6	651	18	2,686	9	440	8	279	17	280	4,336
H28	2016	7	2,051	14	1,068	9	281	32	5,048	20	566	9,014
H28	2016	8	616	16	1,238	11	283	6	335	20	578	3,050
H28	2016	9	556	9	1,105	8	138	9	545	16	363	2,707
H28	2016	10	579	3	350	8	123	12	448	13	140	1,640
H28	2016	11	390	1	17	7	279	8	273	17	218	1,177
H28	2016	12	310	-	-	8	284	2	26	15	155	775
H28	2017	1	459	1	430	9	187	1	17	18	245	1,338
H28	2017	2	595	1	6	9	207	-	-	19	258	1,066
H28	2017	3	648	-	-	7	345	8	175	22	308	1,476
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H29	2017	4	676	-	-	10	342	4	155	16	192	1,365
H29	2017	5	900	17	3,033	11	513	9	423	25	413	5,282
H29	2017	6	651	9	1,589	9	439	4	146	19	406	3,231
H29	2017	7	1,961	14	886	11	538	34	5,850	18	496	9,731
H29	2017	8	785	26	1,410	9	352	4	107	20	656	3,310
H29	2017	9	570	11	849	8	205	6	230	23	634	2,488
H29	2017	10	534	-	-	7	125	13	478	15	454	1,591
H29	2017	11	548	2	796	7	372	8	273	25	340	2,329
H29	2017	12	361	-	-	9	356	2	34	27	239	990
H29	2018	1	400	-	-	8	252	1	14	17	466	1,132
H29	2018	2	409	1	44	9	258	1	5	21	328	1,044
H29	2018	3	1,103	-	-	7	359	3	59	28	294	1,815

表 B.5 利用状況 (H30～R03)

年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
H30	2018	4	1,427	-	-	9	295	4	126	20	212	2,060
H30	2018	5	971	18	2,984	11	342	8	328	18	283	4,908
H30	2018	6	804	6	903	12	465	6	352	26	300	2,824
H30	2018	7	1,808	12	493	8	406	32	3,932	25	399	7,038
H30	2018	8	817	23	1,609	9	362	12	427	22	762	3,977
H30	2018	9	785	1	300	9	215	5	207	23	237	1,744
H30	2018	10	730	-	-	7	175	11	479	23	239	1,623
H30	2018	11	718	-	-	7	363	7	329	26	335	1,745
H30	2018	12	524	-	-	9	385	2	114	20	206	1,229
H30	2019	1	506	-	-	8	249	1	13	20	595	1,363
H30	2019	2	632	-	-	9	319	1	15	21	284	1,250
H30	2019	3	719	-	-	7	384	3	134	37	476	1,713
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
R01	2019	4	963	-	-	10	314	1	110	28	299	1,686
R01	2019	5	1,202	17	2,249	9	309	8	504	27	345	4,609
R01	2019	6	731	6	1,022	12	539	6	316	18	217	2,825
R01	2019	7	1,680	4	444	8	292	34	4,692	24	527	7,635
R01	2019	8	796	26	1,525	10	385	8	236	26	640	3,582
R01	2019	9	597	10	485	9	291	7	307	33	370	2,050
R01	2019	10	692	-	-	6	154	10	501	20	577	1,924
R01	2019	11	736	-	-	8	383	6	168	20	166	1,453
R01	2019	12	529	-	-	8	375	3	270	21	226	1,400
R01	2020	1	445	-	-	8	219	1	18	16	146	828
R01	2020	2	731	-	-	7	345	2	38	22	297	1,411
R01	2020	3	189	-	-	-	-	-	-	1	17	206
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
R02	2020	4	332	-	-	-	-	-	-	-	-	332
R02	2020	5	285	-	-	-	-	-	-	-	-	285
R02	2020	6	795	2	110	9	256	-	-	3	160	1,321
R02	2020	7	791	1	33	9	461	6	258	4	28	1,571
R02	2020	8	906	20	1,031	10	411	2	35	12	162	2,545
R02	2020	9	735	19	2,050	11	397	9	404	13	151	3,737
R02	2020	10	1,235	21	2,494	9	272	12	493	17	179	4,673
R02	2020	11	1,178	1	27	9	299	5	104	18	239	1,847
R02	2020	12	528	1	25	12	406	-	-	16	172	1,131
R02	2021	1	505	-	-	4	90	-	-	1	10	605
R02	2021	2	923	-	-	4	87	-	-	4	36	1,046
R02	2021	3	1,584	1	20	5	166	2	27	18	254	2,051
年度	西暦	月	一般 来館者数	見学 団体数	見学団体 人数	講座回数	講座人数	総合学習 団体数	総合学習 人数	その他 団体数	その他 人数	合計人数
R03	2021	4	1,362	-	-	7	251	1	19	20	167	1,799
R03	2021	5	989	1	30	10	309	3	91	18	255	1,674
R03	2021	6	948	4	327	9	317	8	424	21	200	2,216
R03	2021	7	931	11	971	12	571	11	418	17	169	3,060
R03	2021	8	714	5	341	3	126	1	11	8	94	1,286
R03	2021	9	387	3	195	6	232	6	173	11	131	1,118
R03	2021	10	1,238	57	3,217	6	175	14	634	22	239	5,503
R03	2021	11	811	33	849	10	393	4	92	19	195	2,340
R03	2021	12	539	-	-	8	368	2	30	16	133	1,070
R03	2022	1	116	-	-	1	52	-	-	-	-	168
R03	2022	2	127	-	-	-	-	-	-	-	-	127
R03	2022	3	881	3	85	5	143	3	90	13	176	1,375

付録 C 関連資料

C.1 各種表彰

- 2013（平成 25）年、水防演習での子ども水防講座が長野県知事表彰
- 2017（平成 29）年、加藤事務員が河川愛護表彰（事務所長表彰）
- 2021（令和 3）年 11 月、天竜川総合学習館「かわらんべ」が手づくり郷土賞（国土交通大臣表彰）

C.2 歴代運営スタッフ

役職 年度		館長	事務員	教育担当	広報担当	
H14	2002	下平 正之	加藤 富貴子	今村 理則	楠 康生	
H15	2003	小林 敏弘		堤 久		村井 孝一
H16	2004					
H17	2005					
H18	2006					
H19	2007	岡田 昌伸			柳生 将之	
H20	2008	青木 成人				
H21	2009					
H22	2010					
H23	2011					
H24	2012	井上 晃男		中村 貴俊	久保田 憲昭	
H25	2013					
H26	2014					
H27	2015					
H28	2016					
H29	2017					
H30	2018					
R01	2019					寺澤 保義
R02	2020					
R03	2021					
R04	2022					

図 C.1 歴代スタッフ リスト

C.3 年表

表 C.1 天竜川総合学習館 年表

西暦（和暦）	できごと
1986(S61)	飯田市川路水害予防組合が盛土完成後に「公共施設の設置」を要望
1988(S63)	飯田市川路水害予防組合と飯田市との16項目の確認書で「地域振興に貢献し得るような何らかの公共施設を地区内に設置する」と記載
1996(H8)	飯田市川路水害予防組合は定期総会で「水防資料館」の建設を求める。のちに「治水資料館」に名称変更
1999(H11)	建設省に要望をあげる
2000(H12)	治水資料館（仮称）の建設予算が計上され、検討のための企画会議が組織される。
2001(H13)	1月11日、天竜川防災拠点事業に関する「覚書」調印（四者）。 3月、天竜川防災拠点工事に着手 9月11日、「天竜川防災拠点施設（治水資料館）建設に伴う河川広報・環境学習室等の備品検討委員会」を組織し、2002（平成14）年1月までに5回開催され検討を進めた。
2002(H14)	正式名称を「天竜川総合学習館」とし、「天竜川総合学習館の管理および運営に関する覚書」を4者で締結。 3月25日、竣工。 4月、飯田市は管理運営にかかわる業務を財団法人天竜川環境整備公社に委託する契約を締結。 5月、公募による愛称募集を行い「かわらんべ」と決定。 7月7日、天竜川総合学習館と水辺の楽校いいだのオープニングイベント開催。
2003(H15)	4月5日、入館者1万人到達。 7月6日、1周年記念イベント開催（飯田市鼎文化センター）
2004(H16)	3月23日、「天竜川ものがたり」全6話を公募して審査。その後館内に展示。 8月6日、2周年事業として人形劇団「ぼけっと」による大型紙芝居「ももたろう・舌きりすずめ」を開催 10月17日、合唱劇「カネト」を学習館前の水辺の楽校いいだに特設舞台をこしらえ開催
2005(H17)	3月20日、「天竜川水辺の楽校いいだ 植物図鑑」発行 4月1日、川路水防展示室完成 8月5日、3周年事業として人形劇団「ほんわかシャッター」による「すすきぶつとび梅ばあちゃん」を開催
2006(H18)	7月15～16日、第1回かわらんべ祭り開催
2013(H25)	4月1日、飯田市天竜川環境整備公社を財団法人から一般財団法人非営利型へ移行。 5月26日、天竜川上流水防演習に「土のうこしらえ」として参加。長野県知事表彰を受ける。
2014(H26)	3月14日、河川協力団体に登録
2017(H29)	7月、加藤事務員が河川愛護表彰（事務所長表彰）
2021(R03)	11月、天竜川総合学習館「かわらんべ」が手づくり郷土賞（国土交通大臣表彰）
2022(R04)	3月、手づくり郷土賞の伝達式（中部地方整備局長より）

文献リスト

参考文献

- [1] 飯田市川路水害予防組合編「天龍川 川路水防史 続編」(2003 年刊)
- [2] 天竜川総合学習館かわらんべ, 「平成 14 年度 天竜川総合学習館 かわらんべ 活動記録」(2003 年 6 月)
- [3] 天竜川総合学習館かわらんべ, 「平成 15 年度 天竜川総合学習館 かわらんべ 活動記録」(2004 年 5 月)
- [4] 天竜川総合学習館かわらんべ, 「平成 16 年度 天竜川総合学習館 かわらんべ 活動記録」(2005)
- [5] 天竜川総合学習館かわらんべ, 「平成 17 年度 天竜川総合学習館 かわらんべ 活動記録」(2006)
- [6] 今村 理則, 天竜川総合学習館「かわらんべ」. 伊那, 50(10):43-45. (2002)
- [7] 今村 理則, 水辺の楽校と天竜川総合学習館の紹介. 伊那谷の自然, 101:2-3. (2002)
- [8] 堤 久, 伊那谷自然生態園の植生構想. 伊那谷の自然, 101:4-5. (2002)
- [9] 堤 久, 草はらをつくろう 川路 “かわらんべ” 周辺. 伊那谷の自然, 111:2-5. (2004)
- [10] 久保田 憲昭, 外来種退治の先に見えた「生き物の楽園」の姿. 伊那谷の自然, 190:2-7. (2017)

語りつぐ天竜川シリーズ 第66巻
天竜川総合学習館 かわらんべ ～地域と歩んだ20年～
2022年6月 初版第1刷 発行

編 者：天竜川総合学習館「かわらんべ」

399-2431 長野県飯田市川路 7674

発行所：国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南 7-10

印刷所：株式会社 宮澤印刷

399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 4295

(C) 2022 国土交通省 天竜川上流河川事務所

「語りつぐ天竜川」の発刊にあたって

南アルプス、中央アルプスの高峰にはさまれて、伊那谷を北から南へ貫流する天竜川。その流域では、あり余るほどの自然の恩恵に浴して、人々は豊かな暮らしを育んでいます。しかし、名にし負う“暴れ天竜”は、ひとたび豪雨が見舞えば、日々の穏やかな表情を一変し、猛々しい牙を剥き、人々の暮らしを脅かしてきました。

天竜川上流河川事務所では、天竜川が“母なる川”として優しい微笑をたたえ続けて欲しいと願う人々の切なる気持ちに応えるため、半世紀にわたり、地域の人々の多大なご協力のもと、自然の脅威と闘いながら河川改修事業や砂防事業に取り組んできました。しかし、まだまだ危険な箇所は多く残されており、絶えず流域の変貌をみつめ、河川管理施設・砂防施設の整備と維持を図っていかなければなりません。

平成 9 年に河川法が改正されて 25 年が経過しました。これまでの「治水」・「利水」を主な目的として進められてきた河川の整備及び管理は、新たに「河川環境の整備と保全」を目的に加えるよう位置づけられました。また、地域の意見を反映した河川整備の計画策定の手続きも創設され、地域の方々の意見を反映させた河川整備の推進がますます求められる時代になってきています。そして、地域にとってよりよい整備を目指すには、この天竜川流域に暮らす人々が長い歴史の中で育んできた風土や自然環境といった事項について地域と行政がともに理解を深めることが重要と考えています。

「語りつぐ天竜川」は、こうした考え方に立ち、天竜川に関する地域の知見や経験を収集し、広く地域共有の知識とすることにより、天竜川に対する認識を深め、よりよい天竜川を築いていくことに役立てたいと思い発刊するものです。昭和 61 年度に初版を発刊してからはや 36 年を迎え、今回の発刊を合わせて 66 巻になります。平成 30 年度にはこのシリーズが土木学会の「土木広報大賞 審査員賞」という光栄な賞もいただきました。これもひとえに天竜川を愛する地域の方々、その気持ちに答えようとお忙しい中ご協力いただいた執筆者の方々のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

国土交通省 天竜川上流河川事務所長 佐藤 保之

ご執筆やお話しをお聞かせ頂いた方々には、自由な立場からお考えを披瀝して頂いていますので、国土交通省の見解とは異なる場合があります。

天竜川上流河川事務所 「語りつぐ天竜川シリーズ」PDF 掲載 URL

https://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/jimusyo/publication/pbl_tell/pbl_tell.html

シリーズ目録

番号. 題名	著者
1. 伊那谷の気象	米山 啓一 著
2. 天竜川上流域の立地と災害	北澤 秋司 著
3. 天竜川に於ける河川計画の歩み	鈴木 徳行 著
4. 総合治水の思想	上條 宏之 著
5. 総合治水と森林と	中野 秀章 著
6. 伊久間地先に於ける天竜川の変遷	松澤 武 著
7. 天竜峡で見た天竜川水位の変遷	今村 真直 著
8. 村境は不思議だ	平沢 清人 著
9. 諏訪湖の富栄養化と生物群集の変遷	倉沢 秀夫 著
10. 諏訪湖の御神渡し	米山 啓一 著
11. 理兵衛堤防	下平 元護 著
12. 近世 天竜川の治水 ～ 伊那郡松島村 ～	市川 脩三 著
13. 川筋の変遷 ～ 天竜川と三峰川の場合 ～	唐沢 和雄 著
14. 伊那谷山岳部の降雨特性	宮崎 敏孝 著
15. 天竜川の橋	日下部 新一 著
16. 伊東伝兵衛と伝兵衛五井	北原 優美 編
17. 天竜川の魚や虫たち	橋爪 寿門 著
18. 天竜川のホタル	勝野 重美 著
19. 天竜川流域の村々	松澤 武 著
20. 小渋川水系に生きる ～ 人と水と土と木と ～	中村 寿人 著
21. ものがたり 理兵衛堤防	森岡 忠一 著
22. 量地指南に見る 江戸時代中期の測量術	吉澤 孝和 著
23. 土木技術と生物工学 ～ 生きものを扱う技術～	亀山 章 著
24. 戦国時代の天竜川	笹本 正治 著
25. 天竜川の水運	日下部 新一 著
26. 惣兵衛川除	市村 成人 著
27. 紙芝居 開墾堤防 ～ 下伊那郡豊丘村伴野～	竹村浪の人 著
28. 昭和 36 年伊那谷大水害の気象	奥田 穰 著
29. 天竜川の淵伝説 ～ 『熊谷家伝記』を中心に～	笹本 正治 著
30. 天竜川の源流地帯	赤羽 篤 著

-
- | | |
|--|----------------|
| 31. 東天竜 | 三浦 孝美、仁科 英明 共著 |
| 32. 天竜河原の開発と石川除 | 塩沢 仁治 著 |
| 33. 伊那谷は生きている | 松島 信幸 著 |
| 34. 天竜川の災害伝説 | 笹本 正治 著 |
| 35. 天竜川の災害年表 | 笹本 正治 編 |
| 36. 天竜川水運と樽木 | 村瀬 典章 著 |
| 37. 水辺の環境を守る | 桜井 善雄 著 |
| 38. 諏訪湖 ～ 氾濫の社会史 ～ | 北原 優美 著 |
| 39. 河川工作物と魚類の生活 | 中村 一雄 著 |
| 40. 天竜川上流域の過疎問題 | 山口 通之 著 |
| 41. 資料が語る 天竜川大久保番所 | 松村 義也 著 |
| 42. 天竜川上流 河辺の植物と植生 | 関岡 裕明 著 |
| 43. 水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水 | 藤森 明 著 |
| 44. 横川山巡覧記 ～『辰野町資料第 87 号』より～ 辰野町教育委員会, 赤羽 篤 校訂 | |
| 45. 天龍川の鳥たち | 福与 佐智子 著 |
| 46. 遠山川流域の民俗とふるさとイメージの創造 | 浮葉 正親 著 |
| 47. 田切ものがたり | 赤羽 篤 著 |
| 48. カエルと暮して | 山内 祥子 著 |
| 49. 伊那の冬の風物詩 ざざ虫 | 牧田 豊 著 |
| 50. みんなの三峰川を次世代に | 三峰川みらい会議 |
| 51. 三峰川ものがたり三峰川みらい会議 | 北原 優美 著 |
| 52. 天竜川水系の水質 | |
| ～ 「泳げる諏訪湖・水遊びのできる天竜川」を目指して ～ | 沖野 外輝夫 著 |
| 53. 天竜川の帰化植物たち | 木下 進 著 |
| 54. 中央構造線読み方案内 ～ 諏訪から大鹿村地蔵峠まで ～ | 河本 和朗 著 |
| 55. ふるさとの山 駒ヶ岳ものがたり | 赤羽 篤 著 |
| 56. 近世信州伊那郡大河原村の自然環境と人間 | 松原 輝男 著 |
| 57. 地名を通して見る 天竜川と人々の暮らし | 松崎 岩夫 著 |
| 58. 伊那谷の土砂動態 | 九津見 生哲 著 |
| 59. 天竜川と生きて | 下平 長治 著 |
| 60. 明日に伝える三六災害 | |
| ～ 川路・龍江の水害体験談と子ども達の取り組み ～ | 川路・龍江の方々 |
| 61. 天竜川の川の碑 | 竹入 弘元 著 |

62. 「東日本大震災」の対応について

～ 初動対応 ～ 復旧・復興に向けて ～ 熊谷 順子 著

63. 三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠

北原 富美子 著

64. 天竜川・三峰川河畔でのミヤマシジミ保全

岡村 裕 著

65. 三六災害の記録「濁流の子」の編纂を振り返って

碓田 栄一 著

66. 天竜川総合学習館 かわらんべ ～ 地域と歩んだ20年 ～

天竜川総合学習館 編



国土交通省

天竜川上流
河川事務所